

営業状況等統計調査

(平成26年度財務諸表等より)

— 平成27年度 —

< 解 説 編 >



日本
旅館
協会

一般社団法人 日本旅館協会
JAPAN RYOKAN & HOTEL ASSOCIATION

平成 27 年度 営業状況等統計調査

目 次

<解説編>

営業状況等統計調査票	2
会員数と回答旅館ホテルの内訳	6
はじめに	7
調査の概要	7
 I.基本調査	 9
1. 回答旅館ホテルの規模	9
2. 貸借対照表	10
3. 売上高構成比	11
4. 宿泊客 1 人当り売上高	12
5. 定員稼働率・客室稼働率	14
6. 売上効率	15
7. 原価効率	16
8. 経費率	17
9. 客 1 人当り経費	19
10. 利益率	20
11. 就業者	21
12. 従業員効率	22
13. 建物面積効率	23
14. 資本効率・資金回収年数	24
 II.全件調査	 25
1. 集客の方法	25
2. ホームページ	26
3. 外国人宿泊客	27
4. インターネット対応	28
5. クレジットカード	29
 むすび	 29

平成27年度 営業状況等統計調査票

①

直近の事業年度の決算等にもとづいて記入し、
平成27年 9月18日までにご提出ください。

1

A. 業態と地域（必須）

業態		1. 宿泊料金には夕食・朝食を含む 旅館営業	2. ルームチャージのみで販売する ホテル営業	摘要	1. 旅館業と2. ホテル業の双方に該当する場合は、1. をお選びください。
----	--	---------------------------	----------------------------	----	--

地域	③	以下より該当する地域を1から9の番号をお選び下さい。
----	---	----------------------------

- 1 北海道 …………… 北海道
2 東北 …………… 青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
3 関東 …………… 茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県
4 北陸信越 …………… 新潟県、富山県、石川県、長野県
5 中部 …………… 福井県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
6 関西 …………… 滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
7 中国 …………… 鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
8 四国 …………… 徳島県、香川県、愛媛県、高知県
9 九州 …………… 福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

B. 客室数と面積（必須）

	和室の数			和洋室の数			洋室の数			合 計		
客室数	4		室	5		室	6		室	7		室

建物延べ面積	8		m ²
--------	---	--	----------------

C. 宿泊人員、営業日数等

収容定員	9		人
年間営業日数	10		日
年間販売可能客室数	11		室
年間延べ宿泊人員	12		人
旅行業者経由の宿泊人員	13		%
ネット業者経由の宿泊人員	14		%
自社HPからの宿泊人員	15		%
宿泊人員のうち外国人	16		%
年間延べ日帰り食事利用人員	17		人
年間延べ利用客室数(宿泊のみ)	18		室

外国人の国籍

韓 国	19		人
台 湾	20		人
中 国	21		人
香 港	22		人
タ イ	23		人
米 国	24		人
英 国	25		人
その他	26		人

D. 標準宿泊料金

1. 閑散期に設定している宿泊料金	27		円	～	28		円
2. 繁忙期に設定している宿泊料金	29		円	～	30		円

E-1. 損益計算書(消費税除く) 平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日

科目		金額		摘要
総売上高		31	千円	決算書上の売上高を記入してください。ただし、付帯事業があつて、売上高から経費、営業利益まで旅館ホテル業と分離可能な場合は分離して下記枠外に売上高等をご記入ください。分離できない場合は、合算額でご記入下さい。
内 訳	宿泊客収入	32	千円	宿泊料売上げをご記入ください。ただし、諸税は含めないでください。
	追加料理等	33	千円	1泊2食に含まれない追加料理、特別料理の売上
	飲料・冷蔵庫	34	千円	酒類、ソフトドリンク、客室冷蔵庫売上
	日帰り	35	千円	レストラン、日帰り宴会等料理売上(会場費、施設使用料含む)
	飲料売上	36	千円	日帰り飲料売上
訳	売店売上	37	千円	土産品、タバコなどの売店売上
	その他売上	38	千円	娯楽施設などの売上、花代、出前、クリーニング等の収入
	雑収入	39	千円	上記以外の収入。なお、サービス料(奉仕料)は該当する売上に含めてください
	付帯事業売上	40	千円	旅館事業以外の売上 主な事業内容:
売上原価		41	千円	決算書の売上原価を記入してください
内 訳	期首棚卸し残高	42	千円	期首棚卸し残高の総額を記載ください
	料理材料費	43	千円	料理材料仕入
	飲料仕入	44	千円	酒類、清涼飲料水などの仕入
	売店仕入	45	千円	売店商品仕入
	その他仕入	46	千円	その他売上、付帯事業売上に関する仕入
	期末棚卸し残高	47	千円	期末棚卸し残高の総額を記載ください
売上総利益		48	千円	決算書の売上総利益を記入してください
人件費、販売費及び一般管理費		49	千円	人件費、販売関連費用、業務経費、エネルギー経費、建物およびその他管理経費、減価償却費等諸経費合計
営業利益		50	千円	決算書の営業利益を記入してください(損失の場合△印)
営業外収益		51	千円	受取利息、受取配当金、その他営業外収入
営業外費用		52	千円	支払利息、割引料その他営業外費用
(うち支払利息)		53	千円	前項のうち支払い利息のみ
経常利益		54	千円	決算書の経常利益を記入してください(損失の場合△印)

E-2. 人件費、販売費及び一般管理費の内訳 (E-1.損益計算書の事業年度のものでご記入願います)

給与・賞与 (役員報酬を含む)	55	千円	役員、社員、パートタイマー、アルバイトの給与と賞与の合計
法定福利費	56	千円	社会保険料、雇用保険料等の会社負担分
その他人件費	57	千円	制服代、賄費、その他福利厚生費、退職金
外注費	58	千円	清掃・夜警等の外部委託費、配膳会等人材派遣会社への支払い
送客手数料	59	千円	旅行業、ネット業者及び総合案内所に支払う送客手数料
カード手数料	60	千円	カード会社への支払手数料
広告宣伝費	61	千円	広告費、広告制作費に関わる費用
接待交際費	62	千円	得意先への接待、贈答品、冠婚葬祭費
旅費交通費	63	千円	出張旅費、一般交通費など
消耗品費	64	千円	箸、固形燃料、お膳紙、歯ブラシ、タオル、石鹸、トイレトペーパーなど
備品費	65	千円	減価償却の対象とならない備品の購入費用
洗濯リネン費	66	千円	シーツ、抱布、枕カバー、バスタオル、浴衣、丹前等の洗濯代、リネン費用
水道光熱費 (燃料費を含む)	67	千円	上下水道、電気、ガス、重油、灯油、温泉などの費用
修繕費	68	千円	固定資産、什器備品、送迎営業車輛等の修繕に要した費用
賃借料	69	千円	支払地代、支払家賃、事務機(コンピューター、FAX、コピー機等)のリース料等
通信費	70	千円	電話料金、切手代、宅配便など
減価償却費	71	千円	決算上の減価償却費をご記入ください。
その他	72	千円	上記に含まれないもの、端数調整など
合 計	73	千円	

F. 貸借対照表

平成 年 月 日現在

※直近の決算書よりご記入下さい

借 方				貸 方			
科目	金 額			科目	金 額		
流動資産	74		千円	流動負債	78		千円
固定資産	75		千円	(うち短期借入金)	79		千円
繰延資産	76		千円	固定負債	80		千円
				(うち長期借入金)	81		千円
				純資産の部 (資本金・剰余金)	82		千円
資産の部合計	77		千円	負債・資本の合計	83		千円

G. 就業者

区分	項目	就業者数	
常勤役員	84		人
正社員	85		人
パートタイマー	86		人

注1. 就業者数(正社員・常勤パートタイマー)は、各月末の就業者数の合計(12ヶ月分)を12で除した平均値をご記入下さい。

H. 従業員(正社員)の平均年齢は何歳ですか

男性	87		歳	女性	88		歳
----	----	--	---	----	----	--	---

4

1. サービス料(奉仕料)を設定している 2. 設定していない 89

(※予約段階でサ込み表示されていても、館内販売売め何らかの設定がある場合、設定しているにお答え下さい)

① HP(ホームページ)の開設状況はいかがですか。	90					
1. 自社専用HPがある(次の2. は含まない)	2. エージェント等のサイト内に自社HPがある					
3. 旅館組合等やエージェントのHPに掲載されている	4. 自社HPIは開設していない					
② HPの対応言語をお答えください。(複数回答)	91					
1. 日本語のみ	2. 英語	3. 中国語(繁体字/台湾・香港向け)	4. 中国語(簡体字/大陸向け)	5. 韓国語	6. タイ語	7. 仏語
8. 独語	9. その他()					
③ 外国語HPを作成されていない旅館のみお答えください。外国語のHPを作成する必要があると思いますか。	92					
1. はい	2. いいえ					
④ HPから即時予約することが可能ですか。	93					
1. はい	2. いいえ					
⑤ 即時予約可能なHPがある場合、その対応言語に○をつけて下さい。	94					
1. 日本語のみ	2. 英語	3. 中国語(繁体字/台湾・香港向け)	4. 中国語(簡体字/大陸向け)	5. 韓国語	6. タイ語	7. 仏語
8. 独語	9. その他()					
⑥ サイトコントローラー(手間いらず、ねっぱん、TLリンカーン等)を導入していますか。	95					
1. はい	2. いいえ					
⑦ 無料公衆無線LAN(フリーWi-fi)を設置していますか。	96					
1. はい	2. いいえ					
⑧ (上記で「はい」の方のみ) 無料公衆無線LAN(フリーWi-fi)の設置場所はどちらですか。(複数回答)	97					
1. 全館	2. ロビー	3. 客室	4. 会議室	5. 宴会場	6. その他()	

1. 料金に関わりなく受け入れたい 2. 高単価の外国人客のみ受け入れたい 3. 日本人観光客を優先する
4. 外国人客は受け入れたくない

A. 露天風呂の有無(複数回答)				99
1. 一般的な露天風呂	2. 客室露天風呂	3. 貸し切り露天風呂	4. 無	
B. 温泉の有無				100
1. 有	2. 無			

① クレジットカードによる決済は可能ですか	101				
1. 可 2. 不可					
② 【①の設問で1と答えた場合】 利用できるカードの種類をお答えください(複数回答可)	102				
1. VISA 2. Master Card 3. JCB 4. 三菱UFJニコス(MUFG,DC,UFJ,ニコス) 5. UC 6. イオン					
7. Diners 8. AMEX 9. その他 ()					
③ 決済処理にカード決済端末を導入していますか	103				
1. 導入している 2. 導入していない					
④ 【③の設問で1と答えた場合】 どのカード決済端末を使っていますか	104				
1. C-REX 2. INFOX 3. JET-S 4. その他()					
⑤ 総売上高に占めるクレジットカード決済の割合はどれくらいですか					
	<table border="1"> <tr> <td>回答</td> <td>105</td> <td></td> <td>%</td> </tr> </table>	回答	105		%
回答	105		%		

回答	105		%
----	-----	--	---

一般社団法人 日本旅館協会 (平成27年度4月1日現在)

地域(支部連合会)	会 員 数	区 分
北 海 道	209	北海道
東 北	323	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
関 東	512	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県
北陸信越	533	新潟県、富山県、石川県、長野県
中 部	373	福井県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
関 西	380	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
中 国	166	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
四 国	139	徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九 州	276	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県
合 計	2,911	



●旅館営業とは、宿泊料金に夕食・朝食を含むところとした。

大旅館……客室数 100室以上

中旅館……客室数 31室以上99室以下

小旅館……客室数 30室以下

●ホテル営業とは、ルームチャージのみで販売するところとした。

<平成26年度 営業状況等統計調査回答旅館ホテルの内訳>

	有効回答数	区 分			総回答数
		大 旅 館	中 旅 館	小 旅 館	
旅 館	244	50	111	83	295
北海道	23	14	5	4	26
東北	31	6	17	8	35
関東	24	5	13	6	32
北陸信越	42	4	18	20	56
中部	33	7	14	12	40
関西	40	4	25	11	48
中国	17	5	5	7	22
四国	14	3	4	7	16
九州	20	2	10	8	20
黒字旅館	151	40	64	47	—
赤字旅館	93	10	47	36	—
ホ テ ル	23	9	11	3	28

(注) 損益計算が十分な回答を有効とした。全軒調査は有効回答に加え損益計算が不十分な回答も対象としている。

＜はじめに＞

この調査は当協会のすべての会員に調査票を送付して実施しています。本年は 323 軒の会員から回答が寄せられました。ご協力頂いた会員各位にはこの紙面をお借りしてお礼申し上げます。旅館ホテルはわが国の観光旅行の社会基盤であり、近年急激な勢いで増加する訪日外国人客を受け入れる社会資本です。

しかも、単に宿泊機能を提供する器ではなく、「おもてなし」に代表されるわが国の精神文化をお客様に提供する場です。加えて多くの会員はわが国の伝統文化を日常的に維持発展させる役割を自ら担っています。この調査は当協会の会員である旅館ホテルの経営の現状を分析することで、会員各位の経営基盤の安定に寄与すべく実施するものです。

今般、平成 27 年度の調査分析がまとまりましたので、当協会のホームページに上程します。

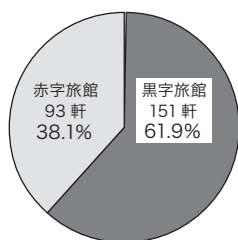
(1) 対象年度を振り返る

平成 26 年の主な出来事は以下であった。

- ・ 訪日外国人旅行客が 1,300 万人を越え過去最高となった。
- ・ 訪日外国人の消費額は年 2 兆円となり、うち 20% の 4,000 億円が宿泊費と言われる。
- ・ 訪日外国人の出発地のトップは台湾で 283 万人、次いで韓国 276 万人、中国 241 万人、香港 93 万人となっている。外国人の多く訪れる都道府県は、東京、京都、大阪、神奈川、広島、北海道の順であった。
- ・ 4 月に消費税が 8% に引き上げられた。
- ・ 群馬県富岡製糸場が世界遺産に登録された。
- ・ 消費税 10% への引き上げ時期をめぐる衆議院選挙が実施され、与党が信任をえる結果となった。

外国人宿泊者数についてはこの調査においても増加を示している。詳細は後述するが北海道の外国人利用率が高い。また、関西や九州、四国で大幅な増加となった。

図1 黒字・赤字旅館の割合 (単位: %)



(2) 調査の概要 〈表1、表2、図1〉

この調査は「Ⅰ. 基本調査」と「Ⅱ. 全件調査」の 2 部構成となっている。基本調査は、損益計算や客室数、利用人員等の記述が十分な回答 (有効回答) を対象としている。全件調査は上記の回答には不十分であるが、部分的であっても回答を寄せている調査票を加える形で集計している。

また、規模別集計を実施しているが、その基準は客室数としている。

- ・ 大旅館: 100 室以上
- ・ 中旅館: 31 室以上 99 室以下
- ・ 小旅館: 30 室以下

さらに、経常利益を基準に「黒字旅館」「赤字旅館」としている。ホテルについては回答軒数が限られることから内訳分析をおこなっていない。

(3) 回答率

今年度の調査票発送部数は 2,844 軒、回答は旅館 295 軒、ホテル 28 軒となっている。うち有効回答は旅館 244 軒、ホテル 23 軒となっている。2,844 軒に対する有効回答率は 9.4% となっている。この 3 年をみると規模別の有効回答数は大旅館が 50 軒前後となっている。中旅館の回答が 100 軒を上回る。小旅館は 83 軒であった。

表1 有効回答旅館の推移 (単位: 軒)

年 度		(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
回 答 軒 数	平成21年	65	106	42	213	—
	22年	62	112	45	219	—
	23年	55	106	33	194	—
	24年	48	106	82	236	22
	25年	50	122	79	251	21
	26年	50	111	83	244	23

表2 黒字旅館の推移 (割合) (単位: %)

年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
平成21年	52.3	50.9	52.4	51.6	—
22年	48.4	42.9	35.6	42.9	—
23年	45.5	47.2	27.3	43.3	—
24年	79.2	56.6	51.2	59.3	68.2
25年	72.0	69.7	58.2	66.5	81.0
26年	80.0	57.7	56.6	61.9	69.6

今年度の規模別の回答状況は以下の通りである。

- ・大旅館 50 軒 (±0 軒、±0.0%)
- ・中旅館 111 軒 (▲11 軒、▲9.0%)
- ・小旅館 83 軒 (+4 軒、+5.1%)

(ホテル) 回答は 23 軒で 2 軒の増加であった。

(4) 黒字・赤字の割合

今年度は黒字旅館 151 軒(61.9%)、赤字旅館 93 軒(38.1%)となっている。黒字の割合は前年を下回る。規模別でみると、

- ・大旅館 80.0% (+8.0p、+11.1%)
- ・中旅館 57.7% (▲12.0p、▲17.2%)
- ・小旅館 56.6% (▲1.6p、▲2.7%)

黒字旅館の割合は、平成 22、23 年が低く、24 年以降回復している。この頃より状況はよいが、今年度は前年を下回る。また、大旅館は 8 割が黒字にであるのに対し中旅館小旅館は 60%を下回っている。

(ホテル) 黒字は 69.6%で前年を下回る。

(5) 今年度の主な変更点

- ・Ⅱ全件調査のうちホームページ対応言語の設問で、日本語と外国語を並列表記してきたものを、「日本語のみ」と各「外国語」という設問表記にした。

(6) この報告書の編集方針

a) 解説編の表記方法について

- ・この調査は平成 26 年度の決算書を対象に平成 27 年度に実施している。各表の最新年度は「26 年」と表記している。
- ・前年との比較：例えば「大旅館 20,000 円(▲500 円、▲2.4%)」と表記した場合、20,000 円は今年度の集計結果であり、()内は前年度との比較を示す。
- ・数値が前年を上回るときは「+」、下回るときは「▲」を付す。
- ・%同士の引き算(例えば、14.4%－14.7%)の結果を%で表記すると 100 分率と混同があるので、単位をポイントとし「p」と表記する。
- ・通常の決算書で「販売費及び一般管理経費」と言

われる経費を次の3区分とする。(表3)

- ・人件費は給与、福利費、その他給与に加え外注費も加えている。
- ・営業経費は送客手数料、客用消耗品などお客様の利用によって増減するものとしている。
- ・管理経費は比較的固定費とみられるものとしている。
- ・解説は旅館を中心におこない、ホテルについては行頭に(ホテル)と明記している。

b) 資料編について

資料編は回答された数値を集計したものである。

留意点は次のとおり。

- ・調査は自主回答であるため一部に無回答がある。そこで項目ごとに集計対象を見直す処理(DK 処理)をおこなっている。
- ・旅館平均、規模別、地域別、黒字赤字別に集計しているが、その場合も以下のようにその都度計算する対象を見直している。
旅館の原価率＝旅館の原価 ÷ 旅館の売上
黒字の原価率＝黒字の原価 ÷ 黒字の売上
赤字の原価率＝赤字の原価 ÷ 赤字の売上
- ・回答された調査票のうち売上等内訳を記載しないまとめ書きについては按分している。
- ・さらに、異常値といえる過大あるいは過小の数値については、その項目を不明としている。
- ・また回答が 2 軒以下の場合は、算出された数値はブランクとしている。例えば、九州の大旅館は回答軒数が少ないために表示しないが、九州全体の平均には含めている。

表3 経費区分

人 件 費	給与・賞与、法定福利費、その他人件費、外注費
営 業 経 費	送客手数料、カード手数料、広告宣伝費、接待交際費、旅費交通費、客用消耗品費、洗濯リネン費
管 理 経 費	水道光熱費、修繕費、備品費、貸借料、通信費、その他
減 価 償 却 費	減価償却費

I. 基本調査

基本調査では旅館ホテルの経営状況を分析している。

1. 回答旅館ホテルの規模 〈表4、表5〉

(1) 総客室数・収容定員

今年度の1軒当りは客室数64室、収容定員277人となっている。規模別では、

- ・大旅館 158室 (▲28室、▲15.1%)
- ・中旅館 55室 (▲4室、▲6.8%)
- ・小旅館 18室 (+0室、+0.0%)

大旅館と中旅館で平均客室数が前年より少なくなっている。

収容定員は、

- ・大旅館 687人 (▲88人、▲11.4%)
- ・中旅館 242人 (▲31人、▲11.4%)
- ・小旅館 76人 (+2人、+2.7%)

とやはり大旅館と中旅館でマイナスとなっている。なお、1室当り定員は平均で4.4人となっており、規模別では大きな違いはみられない。

(ホテル) 客室数99部屋178名となっており、1室当り定員は1.8人となっている。今年度調査では規模的にみても回答しているホテルの規模が前年までと異なっている。後述する経営効率がこれまでと違うことを留意しておきたい。

(2) 1室当り定員

1室当り定員 = 収容定員 ÷ 総客室数

1室当り定員は、和室を中心とする旅館で多く、洋室が中心のホテルは少ない。また、旅館の規模に影響されず安定した数値となっている。

(3) 総売上高・宿泊人員

今年度の総売上高は、

- ・大旅館 18億4,817万円
(▲2億2,145万円、▲10.7%)
- ・中旅館 6億218万円
(▲5,744万円、▲8.7%)
- ・小旅館 1億9,413万円
(▲160万円、▲0.8%)

となっている。小旅館はほぼ前年並みであるが、大旅館、中旅館ともに10%前後のマイナスとなっ

ている。

(ホテル) 総売上高は7億6,481万円と前年の3.2倍となっている。

年間宿泊人員は、

- ・大旅館 9万4,992人 (▲9,313人、▲8.9%)
- ・中旅館 3万415人 (▲3,958人、▲11.5%)
- ・小旅館 8,966人 (+1,029人、+13.0%)

となっている。前年との比較では小旅館が伸びている。大旅館、中旅館ともに10%前後のマイナスとなっている。

(ホテル) 宿泊人員も1.6倍の大幅な増加となっている。

表4 1軒当り総客室数・収容定員・1室当り定員

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
	平成21年	154	59	21	81	—
総客室数(室)	22年	148	60	21	77	—
	23年	168	60	21	84	—
	24年	168	60	19	68	71
	25年	186	59	18	71	65
	26年	158	55	18	64	99
収容定員(人)	平成21年	681	270	86	359	—
	22年	700	274	91	357	—
	23年	735	279	92	376	—
	24年	723	284	83	303	118
	25年	775	273	74	310	122
	26年	687	242	76	277	178
1室当り定員(人)	平成21年	4.4	4.6	4.1	4.5	—
	22年	4.7	4.6	4.4	4.6	—
	23年	4.4	4.6	4.4	4.5	—
	24年	4.3	4.7	4.3	4.5	1.6
	25年	4.2	4.6	4.2	4.3	1.9
	26年	4.4	4.4	4.2	4.4	1.8

表5 総売上高、年間宿泊人員

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
	平成21年	177,327	71,237	23,671	94,223	—
総売上高(万円)	22年	179,280	71,209	22,108	91,715	—
	23年	161,591	70,105	19,536	87,440	—
	24年	188,575	64,855	17,196	73,459	41,287
	25年	206,962	65,962	19,573	79,449	23,922
	26年	184,817	60,218	19,413	71,870	76,481
年間宿泊人員(人)	平成21年	91,693	33,986	10,502	46,996	—
	22年	92,653	33,970	9,435	45,542	—
	23年	91,105	35,809	8,492	46,839	—
	24年	95,103	33,950	8,181	37,434	19,792
	25年	104,305	34,373	7,937	39,983	21,734
	26年	94,992	30,415	8,966	36,352	35,068

2. 貸借対照表〈表6、表7、表8〉

(1) 資産の状況

1軒当り総資産は回答旅館の入れ替わりがあったためか大幅に減少となった。

- ・大旅館 28億3,044万円
(▲12億5,082万円、▲30.6%)
- ・中旅館 8億8,420万円
(▲3億6,629万円、▲29.3%)
- ・小旅館 2億6,652万円
(▲2,831万円、▲9.6%)

①流動資産

今年度の1軒当り総資産は10億8,992万円(▲4億849万円、▲27.3%)となっている。大旅館と中旅館の総資産が大幅に減少したことが原因となっている。そのうち流動資産は19.1%となっており規模の差はあまりみられない。
(ホテル) 総資産は20億7,953万円と前年を大幅に上回っている。

②固定資産

固定資産は総資産の80.5%を占めるが、前年よりも2.5pの増加となっている。
(ホテル) 77.7%と固定資産は旅館より割合が低い。

(2) 負債・資本の状況

①流動負債

流動負債は1年以内に返済する借入金のほか仕入れの買掛金、税金等の一時的な預り金であり、総資産の18.3%を占める。流動資産(19.1%)が流動負債(18.3)%をわずかに上回っている。流動資産が流動負債を上回る方が望ましい。
(ホテル) 流動資産が21.6%であるのに対して流動負債は18.6%と低くなっている。

②長短借入金

長期借入金と短期借入金の合計は、負債・資本の合計の78.1%で前年の+14.5pとなっている。大旅館と中旅館が多く、小旅館は少ない。
(ホテル) 長短借入金は前年より著しく減少し25.1%となっている。

③自己資本比率

自己資本は資本金と剰余金からなる。その構成比は9.0%となっている。小旅館は17.4%と高い。
(ホテル) 自己資本比率が55.5%と高い。

表6 1軒当り資産

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
総資産額 (万円)	平成22年	347,864	121,590	57,455	172,515	－
	23年	307,118	119,697	35,141	160,116	－
	24年	350,180	128,010	37,830	143,818	120,998
	25年	408,126	125,049	29,483	149,841	36,289
	26年	283,044	88,420	26,652	108,922	207,953
長短借入金合計 (万円)	平成22年	272,455	106,421	38,520	139,480	－
	23年	265,531	95,835	23,678	133,153	－
	24年	279,780	91,199	24,754	108,031	80,492
	25年	252,004	80,257	22,463	95,357	27,302
	26年	224,596	70,305	17,064	85,129	52,095

表7 貸借対照表

(単位：%)

	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
流動資産	20.0	17.3	21.4	19.1	21.6
固定資産	79.8	82.1	78.1	80.5	77.7
繰延資産	0.2	0.6	0.5	0.4	0.7
資産の部合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
流動負債	17.5	19.6	18.8	18.3	18.6
(うち短期借入金)	9.1	7.4	7.2	8.4	7.7
固定負債	72.2	75.5	63.8	72.6	25.9
(うち長期借入金)	70.2	72.1	56.9	69.7	17.3
(長短借入金合計)	79.4	79.5	64.0	78.1	25.1
自己資本	10.4	4.9	17.4	9.0	55.5
負債・資本の合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表8 資産と借入金

(単位：%)

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
流動資産	平成21年	15.3	12.7	17.1	14.4	－
	22年	20.2	12.1	20.6	17.3	－
	23年	18.9	15.4	19.3	17.4	－
	24年	18.5	16.4	20.3	17.8	10.5
	25年	22.9	20.6	15.3	21.4	19.2
	26年	20.0	17.3	21.4	19.1	21.6
固定資産	平成21年	84.6	86.9	82.9	85.3	－
	22年	79.7	87.4	78.5	82.4	－
	23年	80.8	82.1	79.5	81.3	－
	24年	81.4	83.4	77.1	81.8	89.5
	25年	76.7	78.8	84.4	78.0	80.7
	26年	79.8	82.1	78.1	80.5	77.7
長短借入金合計	平成21年	78.9	84.9	76.5	81.0	－
	22年	78.3	87.6	67.0	80.8	－
	23年	86.5	80.1	67.4	83.2	－
	24年	79.9	71.3	65.4	75.1	66.5
	25年	61.7	64.2	76.2	63.6	75.2
	26年	79.4	79.5	64.0	78.1	25.1

3. 売上高構成比 〈図2、表9〉

売上高の内訳である「宿泊料収入」「追加料理」「飲料売上」「売店売上」等の記述がない回答については、主に平均値から補足し推定している。

宿泊料売上は全体の69.3%を占め、次いで日帰り料飲8.1%、その他・雑収入7.1%、宿泊料飲6.0%、売店5.5%、付帯事業4.1%となっている。
(ホテル) 宿泊料売上げは33.0%となっている。また、日帰り料飲は41.5%と宿泊料売上を上回る。

(1) 宿泊料売上

総売上高に占める宿泊料は平均69.3%で前年度よりも1.2p増加した。大旅館の影響が大きい。

- ・大旅館 70.5% (+3.4p、+5.1%)
- ・中旅館 68.2% (▲0.4p、▲0.6%)
- ・小旅館 67.2% (▲4.9p、▲6.8%)

黒字・赤字別では、

- ・大旅館 黒字71.0% 赤字68.6%
- ・中旅館 黒字66.9% 赤字70.7%
- ・小旅館 黒字69.2% 赤字62.9%

赤字の小旅館では宿泊料売上の割合が低く、他は70%前後となっている。

(2) 宿泊客料飲売上

宿泊客収入のうち追加料理と飲料・冷蔵庫を合計した料飲売上は平均で総売上高の6.0%(+0.1p)となっている。黒字旅館の料飲比率が低い。

- ・大旅館 黒字5.9% 赤字6.8%
- ・中旅館 黒字5.8% 赤字6.0%
- ・小旅館 黒字5.0% 赤字4.9%

(3) 日帰り客料飲売上 〈表7〉

日帰り客料飲売上が総売上高に占める割合は平均で8.1%、中旅館と小旅館が10%を超える。大旅館では5.2%と低い。

(4) 売店売上

売店売上の比率は長期的に低下している。規模の大きいほど売店売上の比率は高い。

- ・大旅館 6.6% (▲0.2p、▲2.9%)
- ・中旅館 4.6% (▲0.2p、▲4.2%)
- ・小旅館 3.3% (▲0.1p、▲2.9%)

図2 売上構成比 (単位：%)

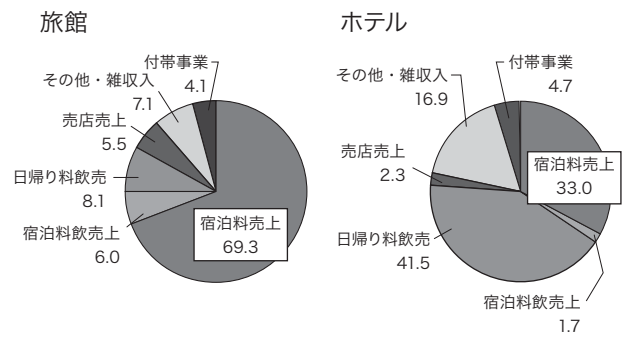


表9 売上高構成

(単位：%)

年 度		(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
宿泊料売上	平成21年	67.9	66.3	64.7	67.1	－
	22年	69.1	66.9	66.6	68.1	－
	23年	68.5	67.5	64.2	67.9	－
	24年	65.5	68.5	63.3	66.5	28.4
	25年	67.1	68.6	72.1	68.1	47.2
	26年	70.5	68.2	67.2	69.3	33.0
宿泊客 料飲売上	平成21年	6.8	6.4	7.2	6.7	－
	22年	5.9	5.9	5.4	5.9	－
	23年	6.3	5.7	5.1	6.0	－
	24年	6.0	5.4	4.5	5.6	1.3
	25年	5.5	6.7	5.0	5.9	5.9
	26年	6.2	5.9	5.1	6.0	1.7
日帰り客 料飲売上	平成21年	7.0	11.4	14.6	9.0	－
	22年	6.5	11.1	15.9	8.8	－
	23年	7.1	9.5	17.3	8.5	－
	24年	10.5	9.1	19.4	10.7	48.2
	25年	9.0	9.2	11.5	9.3	32.5
	26年	5.2	11.4	10.4	8.1	41.5
売店売上	平成21年	7.4	6.4	3.6	6.5	－
	22年	7.9	5.6	3.7	6.8	－
	23年	7.1	5.1	3.2	6.1	－
	24年	7.3	5.2	3.6	6.2	1.2
	25年	6.8	4.8	3.4	5.7	2.0
	26年	6.6	4.6	3.3	5.5	2.3
その他・雑収入	平成21年	8.6	7.3	4.4	7.9	－
	22年	8.9	6.9	4.3	7.9	－
	23年	9.2	7.2	1.6	8.0	－
	24年	7.3	5.9	3.9	6.5	9.9
	25年	7.7	5.9	4.2	6.7	3.5
	26年	8.5	5.8	4.4	7.1	16.9
付帯事業	平成21年	2.2	3.1	4.9	2.7	－
	22年	1.7	3.6	4.1	2.6	－
	23年	1.8	5.0	8.6	3.5	－
	24年	3.4	5.8	5.2	4.5	10.9
	25年	4.0	4.9	3.8	4.3	8.8
	26年	3.0	4.2	9.7	4.1	4.7

(5) その他・雑収入

その他・雑収入は7.1%を占める。カラオケ酒場や夜食処、コンパニオンの立替え収入などである。パブリック施設が充実している大旅館の比率が高く、小旅館が低い。

(6) 付帯事業

この調査は旅館ホテル業が本業であることを前提としている。旅館ホテル業以外の事業が決算書に含まれる場合、付帯事業として回答することを求めている。具体例として回答されたのは、レストラン業、日帰り入浴施設、ブライダル業、デイサービス、バス・運輸業、テナント等賃貸業、設備管理保守の受託などとなっている。湯の花製造販売という事例もあった。

4. 宿泊客1人当り売上高〈図3、表10、表11〉

売上高を宿泊客人数で割り算して客単価を求めている。宿泊者数を基本とするものの、日帰り単価は日帰り利用人数より求めている。

(1) 宿泊客1人当り売上高

宿泊客1人当り売上高＝総売上高÷宿泊人員

宿泊客1人当り総売上高には日帰り売上を含めている。一方、付帯事業は含めていない。

かつて小旅館が高かったが、規模の違いはあまりみられなくなった。

今年度は小旅館が大幅に低下した。

- ・大旅館 18,866 円 (▲188 円、▲1.0%)
- ・中旅館 18,962 円 (+717 円、+3.9%)
- ・小旅館 19,542 円 (▲4,184 円、▲17.6%)

赤字黒字で見ると中旅館、小旅館の単価がそれぞれ赤字よりも高い。

- ・大旅館 黒字 18,800 円 赤字 19,149 円
 - ・中旅館 黒字 19,820 円 赤字 17,499 円
 - ・小旅館 黒字 20,727 円 赤字 17,478 円
- (ホテル) 20,792 円と旅館を上回る額となっている。

(2) 宿泊客1人当り宿泊料売上

客1人当り宿泊料売上＝宿泊料売上高÷宿泊人員

客1人当りの宿泊料売上は宿泊単価である。

各規模とも前年からは回復している。

特に小旅館は14,549 円と前年を大幅に下回る。

- ・大旅館 13,720 円 (+403 円、+3.0%)
- ・中旅館 13,496 円 (+341 円、+2.6%)
- ・小旅館 14,549 円 (▲3,240 円、▲18.2%)

黒字、赤字別でみると黒字が高く赤字が低い。小旅館ではその差が顕著となっている。

- ・大旅館 黒字 13,728 円 赤字 13,685 円
- ・中旅館 黒字 13,990 円 赤字 12,654 円
- ・小旅館 黒字 16,121 円 赤字 11,810 円

(ホテル) 7,194 円と旅館よりも大幅に低い。

(3) 宿泊客1人当り料飲売上

客1人当り料飲売上＝料飲売上高÷宿泊人員

宿泊客収入のうち追加料理と飲料・冷蔵庫の合計を宿泊客1人当り料飲売上としている。旅館の平均は1,169 円となっている。大旅館が前年を上回るものの低下傾向が続く。

- ・大旅館 1,191 円 (+98 円、+9.0%)
- ・中旅館 1,156 円 (▲123 円、▲9.6%)
- ・小旅館 1,086 円 (▲151 円、▲12.2%)

黒字と赤字では大旅館では赤字が高く、小旅館では赤字が低い。

- ・大旅館 黒字 1,149 円 赤字 1,367 円
- ・中旅館 黒字 1,201 円 赤字 1,081 円
- ・小旅館 黒字 1,177 円 赤字 928 円

(ホテル) 373 円と旅館に比較すると低い。

図3 客1人当り売上高の推移

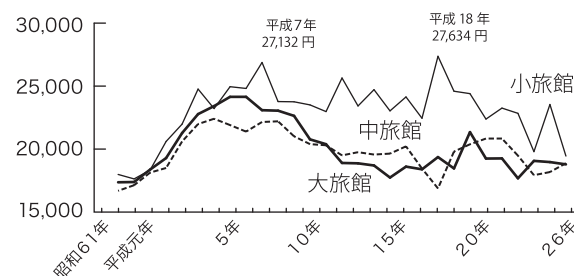


表10 宿泊客1人当り売上高 (単位: 円)

	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅館	ホテル
平成21年	19,339	20,961	22,540	20,064	—
22年	19,350	20,962	23,432	20,139	—
23年	17,737	19,577	23,006	18,668	—
24年	19,150	17,992	19,919	18,737	18,590
25年	19,054	18,245	23,726	19,008	10,038
26年	18,866	18,962	19,542	18,959	20,792

(4) 宿泊客1人当り売店売上

客1人当り売店売上＝売店売上高 ÷ 宿泊人員

長期的には低下傾向にある。平均で1,094 円と前年をさらに下回る結果となっている。大旅館ほど売店の平均単価は高く規模格差が表れている。

- ・大旅館 1,282 円 (▲59 円、▲4.4%)
- ・中旅館 912 円 (+0 円、+0.0%)
- ・小旅館 716 円 (▲133 円、▲15.7%)

黒字と赤字でみると小旅館では赤字が高い。

- ・大旅館 黒字 1,329 円 赤字 1,082 円
- ・中旅館 黒字 969 円 赤字 815 円
- ・小旅館 黒字 648 円 赤字 834 円

(ホテル) 売店単価は491円と旅館平均の 45%程度となっている。

(5) 宿泊客1人当りその他・雑収入 〈表 12〉

宿泊客1人当りその他・雑収入＝

(その他売上+雑収入) ÷ 宿泊人員

館内のカラオケ酒場や夜食処の売上、出前、花代(コンパニオン)、マッサージなどの手数料収入などを「その他売上」として設問している。付帯施設が充実している大旅館ほど消費単価は高く、小旅館は低い。

- ・大旅館 1,649 円 (+121 円、+7.9%)
- ・中旅館 1,154 円 (+26 円、+2.3%)
- ・小旅館 951 円 (▲87 円、▲8.4%)

(ホテル) 3,694 円と旅館平均を大きく上回る。

(6) 日帰り客1人当り売上

日帰り客1人当り売上＝日帰り客料飲売上

÷ 日帰り食事利用人員

日帰り単価は大旅館、中旅館で 5,000 円を上回る。小旅館は前年をさらに下回った。

- ・大旅館 5,447 円 (+491 円、+9.9%)
- ・中旅館 5,107 円 (▲332 円、▲6.1%)
- ・小旅館 4,547 円 (▲172 円、▲3.6%)

黒字と赤字でみると小旅館では赤字が高い。

- ・大旅館 黒字 5,550 円 赤字 4,896 円
- ・中旅館 黒字 5,679 円 赤字 4,194 円

- ・小旅館 黒字 4,164 円 赤字 4,948 円

(ホテル) 7,283 円と前年の 2.5 倍となっている。

また、日帰り単価が宿泊料単価を上回っている。

表11 宿泊客一人当たり売上高 (単位：円)

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
客一人当り宿泊料売上	平成21年	13,129	13,899	14,586	13,471	－
	22年	13,367	14,020	15,608	13,711	－
	23年	12,153	13,209	14,772	12,675	－
	24年	12,982	13,084	13,314	13,049	5,934
	25年	13,317	13,155	17,789	13,528	5,200
	26年	13,720	13,496	14,549	13,704	7,194
客一人当り料飲売上	平成21年	1,320	1,336	1,613	1,339	－
	22年	1,140	1,247	1,258	1,186	－
	23年	1,122	1,118	1,181	1,122	－
	24年	1,184	1,032	952	1,104	281
	25年	1,093	1,279	1,237	1,180	647
	26年	1,191	1,156	1,086	1,169	373
客一人当り売店売上	平成21年	1,432	1,155	946	1,311	－
	22年	1,531	1,172	863	1,366	－
	23年	1,256	1,003	730	1,134	－
	24年	1,443	999	755	1,210	249
	25年	1,341	912	849	1,131	223
	26年	1,282	912	716	1,094	491

表12 宿泊客一人当たり売上高 (単位：円)

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
客1人当りその他・雑収入	平成21年	1,672	1,522	981	1,587	－
	22年	1,726	1,450	1,011	1,590	－
	23年	1,638	1,402	367	1,500	－
	24年	1,456	1,129	817	1,274	2,069
	25年	1,528	1,128	1,038	1,330	384
	26年	1,649	1,154	951	1,402	3,694
日帰り客1人当り売上	平成21年	5,771	5,846	4,901	5,724	－
	22年	5,716	5,317	5,489	5,488	－
	23年	5,211	4,921	5,243	5,070	－
	24年	4,984	4,914	4,400	4,865	4,258
	25年	4,956	5,439	4,719	5,116	2,859
	26年	5,447	5,107	4,547	5,143	7,283

5. 定員稼働率・客室稼働率〈図4、表13、表14〉

旅館ホテル業の稼働率は定員と客室を基準とする。
洋室に対して和室は1室当りの定員が多い。旅館では定員どおりに販売することは難しい。

(1) 定員稼働率

定員稼働率＝宿泊人員÷

(収容定員×営業日数)×100

大旅館の定員稼働率はかつて55%を超えていた。
長期的に低下していたが、近年は持ち直しの傾向にある。規模別では大きいほど高稼働であるという状況が続いているが、その差はなくなりつつある。

- ・大旅館 38.4% (+1.2p、+3.2%)
- ・中旅館 35.1% (▲0.3p、▲0.8%)
- ・小旅館 33.8% (+2.7p、+8.7%)

黒字旅館は高稼働で、赤字旅館は低稼働である。

- ・大旅館 黒字 39.1% 赤字 35.6%
- ・大旅館 黒字 38.0% 赤字 31.1%
- ・大旅館 黒字 38.4% 赤字 28.0%

(ホテル) 定員稼働率は54.7%で旅館よりも高稼働となっている。

(2) 客室稼働率

客室稼働率＝利用客室数÷

(客室数×営業日数)×100

旅館では定員での集客が難しいため、定員稼働率と客室稼働率の差は大きい。規模別でみると大旅館が高く、小旅館が低い。

- ・大旅館 64.4% (+7.6p、+13.4%)
- ・中旅館 59.0% (▲1.4p、▲2.3%)
- ・小旅館 54.6% (+6.1p、+12.6%)

(ホテル) 客室稼働率は72.7%となっている。

(3) 地域別稼働率

定員稼働率では中部が40.3%で最も高く九州、関西が続く。中部の小旅館は27.6%と低く規模格差が激しい。

関西の小旅館は49.4%と高い。客室稼働率は中部が高く、関東が続く。次いで関西、北海道の順となっている。

図4 定員稼働率の推移 (%)

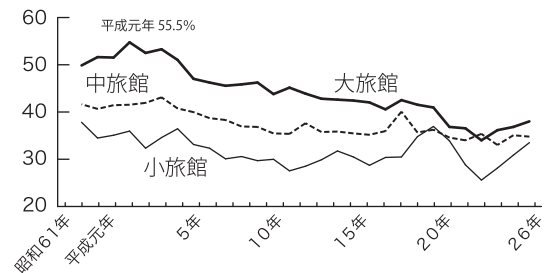


表13 定員稼働率・客室稼働率

(単位：円)

年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
定員稼働率	平成21年	37.2	34.9	34.2	36.2
	22年	36.9	34.3	29.0	35.5
	23年	34.3	35.7	25.7	34.5
	24年	36.5	33.3	28.3	34.4
	25年	37.2	35.4	31.1	36.0
	26年	38.4	35.1	33.8	36.6
客室稼働率	平成21年	60.0	54.2	45.9	57.4
	22年	62.0	58.6	45.3	59.9
	23年	57.7	58.7	45.4	57.8
	24年	59.4	59.4	49.1	58.5
	25年	56.8	60.4	48.5	57.8
	26年	64.4	59.0	54.6	61.6
1室当り宿泊利用人員	平成21年	2.72	2.90	2.92	2.79
	22年	2.83	2.69	2.53	2.77
	23年	2.61	2.72	2.28	2.65
	24年	2.67	2.67	2.40	2.65
	25年	2.81	2.66	2.66	2.73
	26年	2.62	2.64	2.68	2.63

表14 地域別稼働率

(単位：円)

地 域	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館
定員稼働率	北 海 道	36.6	40.9	23.0
	東 北	35.4	28.8	23.1
	関 東	42.6	34.8	33.4
	北 陸 信 越	41.8	29.9	31.6
	中 部	45.2	37.6	27.6
	関 西	37.5	38.7	49.4
	中 国	31.9	37.2	40.4
	四 国	33.7	40.3	30.2
	九 州	—	35.8	41.0
客室稼働率	北 海 道	63.6	62.6	58.7
	東 北	59.2	55.8	39.5
	関 東	69.0	62.3	51.1
	北 陸 信 越	68.3	49.4	53.2
	中 部	73.1	66.9	45.4
	関 西	68.3	61.2	70.7
	中 国	61.7	60.7	55.4
	四 国	53.6	—	60.7
	九 州	—	51.2	57.3

6. 売上効率

(1) 1室当り売上高 〈図5、表15〉

1室当り売上高＝総売上高÷客室数

宿泊業にとって客室は営業基盤である。客室が1部屋当りで年間いくら売り上げているかをみると、旅館平均で1,130万円と前年より18万円の増となっている。大旅館で増加し中旅館と小旅館は低下となっている。

- ・大旅館 1,169万円 (+57万円、+5.1%)
- ・中旅館 1,090万円 (▲25万円、▲2.2%)
- ・小旅館 1,087万円 (▲10万円、▲0.9%)

中旅館と小旅館で黒字赤字の差が顕著となっている。

- ・大旅館 黒字 1,176万円 赤字 1,143万円
- ・中旅館 黒字 1,263万円 赤字 857万円
- ・小旅館 黒字 1,302万円 赤字 800万円

(ホテル) 1室売上高は774万円と旅館より低くなっている。

(2) 建物面積1㎡当り売上高

建物面積1㎡当り売上高＝

総売上高÷建物延べ面積

建物延べ面積当り売上高は、営業形態の違いを排除して営業効率を分析するのに適した指標である。

規模別では中旅館がやや低い。大旅館と中旅館で増加だが、小旅館はマイナスとなっている。

ただし、建物延べ面積の回答がやや少なく166軒と有効回答の68.0%にとどまる。

- ・大旅館 8.5万円 (+0.6万円、+7.6%)
- ・中旅館 7.9万円 (+0.4万円、+5.3%)
- ・小旅館 8.4万円 (▲0.1万円、▲1.2%)

中旅館の赤字旅館が特に低い。

- ・大旅館 黒字 8.3万円 赤字 10.0万円
- ・中旅館 黒字 9.4万円 赤字 5.8万円
- ・小旅館 黒字 9.5万円 赤字 7.3万円

(ホテル) 面積当り売上高は旅館より低い。

(3) 就業者1人当り売上高

就業者1人当り売上高＝総売上高÷就業者数

旅館ホテル業の従事者は社員のみならずパートタイマー、アルバイト、派遣社員や委託先で構成されている。

この調査では常勤役員、社員、常勤パートを就業者とし、就業者当りの指標を算出している。

就業者1人当り売上高は大旅館ほど効率性が高く規模の差が明確となっている。

- ・大旅館 1,214万円 (+106万円、+9.6%)
- ・中旅館 875万円 (+8万円、+0.9%)
- ・小旅館 806万円 (+32万円、+4.1%)

黒字・赤字も格差が表れている。

- ・大旅館 黒字 1,237万円 赤字 1,127万円
- ・中旅館 黒字 903万円 赤字 823万円
- ・小旅館 黒字 872万円 赤字 689万円

(ホテル) 1,034万円となっている。

図5 1室当り売上の推移 (万円)

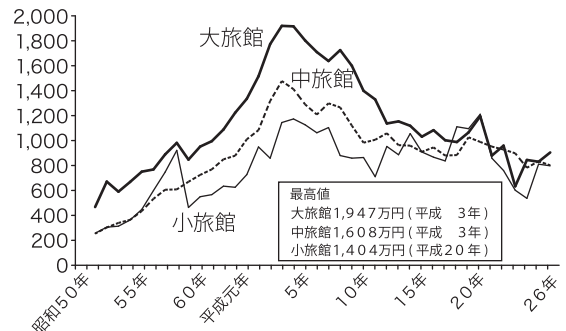


表15 売上効率

(単位: 万円)

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
1室当り売上高	平成21年	1,150	1,205	1,134	1,169	－
	22年	1,211	1,187	1,058	1,193	－
	23年	961	1,164	937	1,039	－
	24年	1,123	1,075	887	1,081	579
	25年	1,112	1,115	1,097	1,112	370
	26年	1,169	1,090	1,087	1,130	774
建物1㎡当り売上高	平成21年	7.9	8.1	8.1	8.0	－
	22年	8.1	8.0	8.6	8.1	－
	23年	6.8	7.8	7.5	7.2	－
	24年	7.9	7.7	7.4	7.7	8.8
	25年	7.9	7.5	8.5	7.8	7.6
	26年	8.5	7.9	8.4	8.2	7.3
就業者1人当たり売上高	平成21年	1,149	963	810	1,051	－
	22年	1,176	926	808	1,045	－
	23年	1,175	905	747	1,021	－
	24年	1,172	903	722	1,008	941
	25年	1,108	867	774	952	719
	26年	1,214	875	806	1,017	1,034

7. 原価効率

(1) 売上総原価率 〈図6、表16〉

売上総原価率＝売上原価 ÷ 総売上高 ×100

総原価率は平均で 25.1%と前年をやや上回る。

大旅館が比較的高い。また、総じて長期的に低下傾向にある。売店やコンパニオンなど原価率の高い売上げが落ち込んでいると考えられる。

- ・大旅館 25.4% (+0.3p、+1.2%)
- ・中旅館 24.8% (+0.6p、+2.5%)
- ・小旅館 24.4% (+1.3p、+5.6%)

黒字・赤字別でも顕著な差はみられない。

- ・大旅館 黒字 25.2% 赤字 26.1%
- ・中旅館 黒字 24.8% 赤字 24.9%
- ・小旅館 黒字 24.2% 赤字 25.0%

(ホテル) 総原価率は 26.1%となっている。

(2) 料理材料費率

料理材料費率＝料理材料費 ÷

(宿泊料＋追加料理＋日帰り料理売上) ×100

料理材料費率は大きく変動していないうえ、規模の差は顕著ではない。料理材料費率の算出は、旅館では宿泊料を分母に入れ、ホテルでは宿泊料を分母に入れていない。

- ・大旅館 19.8% (+0.1p、+0.5%)
- ・中旅館 21.0% (+0.9p、+4.5%)
- ・小旅館 20.7% (+0.7p、+3.5%)

(ホテル) 旅館業よりも高く 39.8%となっている。

(3) 飲料仕入率

飲料仕入率＝飲料仕入 ÷ 飲料売上 ×100

飲料仕入率は平均 32.4%で大旅館が低く、小旅館が高い。

- ・大旅館 31.5% (+0.0p、+0.0%)
- ・中旅館 33.0% (+0.0p、+0.0%)
- ・小旅館 34.4% (+1.6p、+4.9%)

(ホテル) 飲料仕入率は 24.9%と低い。

(4) 売店仕入率

売店仕入率＝売店仕入 ÷ 売店売上 ×100

例年安定した数値を示す売店原価率であるが、今年度は大旅館でやや高い。

- ・大旅館 68.2% (+1.6p、+2.4%)
- ・中旅館 67.0% (▲0.8p、▲1.2%)
- ・小旅館 67.3% (+2.7p、+4.2%)

(ホテル) 売店原価率は 61.4%と前年に比べ大きく低下した。

図6 売上総原価率の推移 (%)

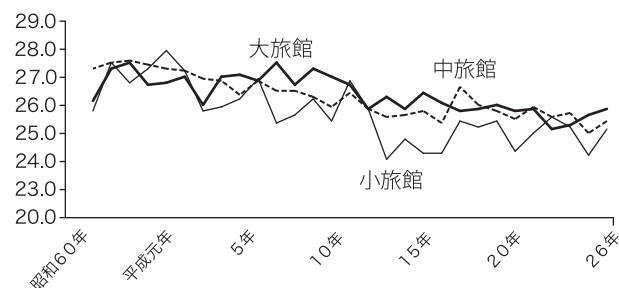


表16 原価率

(単位: %)

年 度		(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
売上総原価率	平成21年	25.3	24.9	23.3	25.0	—
	22年	25.4	25.5	24.2	25.4	—
	23年	24.4	25.0	25.0	24.7	—
	24年	24.6	25.2	24.5	24.8	28.1
	25年	25.1	24.2	23.1	24.6	20.7
	26年	25.4	24.8	24.4	25.1	26.1
料理材料費率	平成21年	19.9	20.3	20.1	20.0	—
	22年	19.7	21.1	20.3	20.3	—
	23年	19.2	20.7	21.8	20.0	—
	24年	19.3	20.2	20.6	19.8	35.5
	25年	19.7	20.1	20.0	19.9	40.2
	26年	19.8	21.0	20.7	20.4	39.8
飲料仕入率	平成21年	33.0	32.2	31.9	32.6	—
	22年	32.1	32.3	33.9	32.3	—
	23年	31.7	32.3	37.6	32.2	—
	24年	31.6	34.2	34.1	32.9	31.3
	25年	31.5	33.0	32.8	32.2	32.8
	26年	31.5	33.0	34.4	32.4	24.9
売店仕入率	平成21年	65.6	67.2	70.4	66.3	—
	22年	67.7	66.9	67.2	67.5	—
	23年	67.0	65.9	64.8	66.5	—
	24年	66.6	65.7	66.8	66.3	70.0
	25年	66.6	67.8	64.6	66.9	70.2
	26年	68.2	67.0	67.3	67.8	61.4

8. 経費率 〈表 17、表 18〉

この調査では原価を除く経費を人件費、営業経費、管理経費、減価償却費の4つに分類している。

表 18 では主要経費を分類の内訳としている。

(1) 人件費率

人件費率＝人件費 ÷ 総売上高 ×100

経費内訳より、給与・賞与、法定福利費、その他人件費、外注費の合計を人件費としている。旅館ホテル業は労働集約産業であるため他産業より人件費圧力が高い。

人件費率は前年をやや上回る。小旅館では 0.1p の低下だが、大旅館、中旅館より高い。大旅館ほど人の効率が良いと言える。

- ・大旅館 30.5% (+0.2p、+0.7%)
- ・中旅館 32.2% (+1.5p、+4.9%)
- ・小旅館 35.2% (▲0.1p、▲0.3%)

赤字旅館は黒字旅館よりも人件費率が高い。特に赤字小旅館は 37.6% と高い。資料編より内訳をみると、赤字旅館は給与・賞与が高い。

- ・大旅館 黒字 30.2% 赤字 31.9%
- ・中旅館 黒字 31.2% 赤字 34.0%
- ・小旅館 黒字 34.1% 赤字 37.6%

人件費率の内訳をみると大旅館では外注費が高く、小旅館では給与・賞与が高い。
(ホテル) 人件費率は 34.5% と旅館より高い。内訳では給与・賞与と法定福利費、外注費が旅館より高い。

(2) 営業経費率

営業経費率＝営業経費 ÷ 総売上高 ×100

送客手数料、カード手数料、広告宣伝費、接待交際費、旅費交通費といった販売経費。客用消耗品費、洗濯リネン費といった利用人員に比例する経費をもって営業経費としている。営業経費率は前年より上昇している。

- ・大旅館 13.5% (+0.5p、+3.8%)
- ・中旅館 14.1% (+0.2p、+1.4%)
- ・小旅館 12.7% (+0.6p、+5.0%)

また、黒字・赤字別でみると赤字の中旅館が高いが、黒字と赤字の間に顕著な差は認められない。

- ・大旅館 黒字 13.6% 赤字 13.1%
- ・中旅館 黒字 13.9% 赤字 14.4%
- ・小旅館 黒字 12.8% 赤字 12.4%

営業経費率の内訳をみると、大旅館では送客手数料が高い。小旅館では客用消耗品費がやや高い。(ホテル) 10.4% と旅館と比較して低い。送客手数料が低く、広告宣伝費が高い。

(3) 管理経費率

管理経費率＝管理経費 ÷ 総売上高 ×100

主なものは水道光熱費、修繕費、備品費、賃借料、通信費として、さらにその他経費を加えている。管理経費は固定費的要素が強い。また、規模による差はあまりみられない。また、今年度はその他経費率が

表 17 経費率 (単位: %)

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
人件費率	平成21年	31.2	32.8	36.7	32.1	－
	22年	31.5	32.3	37.8	32.1	－
	23年	30.6	32.5	40.6	31.8	－
	24年	30.2	32.5	35.8	31.6	34.8
	25年	30.3	30.7	35.3	30.9	29.8
	26年	30.5	32.2	35.2	31.6	34.5
営業経費率	平成21年	13.6	13.4	11.9	13.4	－
	22年	13.5	13.7	12.4	13.5	－
	23年	13.6	13.7	12.4	13.6	－
	24年	12.7	14.0	12.4	13.2	9.4
	25年	13.0	13.9	12.1	13.3	11.5
	26年	13.5	14.1	12.7	13.6	10.4
管理経費率	平成21年	20.3	22.0	21.2	20.9	－
	22年	20.3	22.1	21.4	21.1	－
	23年	22.2	22.3	21.6	22.2	－
	24年	21.8	21.1	22.3	21.6	21.7
	25年	21.8	22.9	21.0	22.2	25.2
	26年	20.2	20.3	20.1	20.2	19.4
減価償却費率	平成21年	7.7	6.9	7.6	7.4	－
	22年	7.8	7.0	7.0	7.4	－
	23年	7.7	6.3	7.0	7.1	－
	24年	7.1	6.4	5.8	6.7	5.7
	25年	6.1	5.7	6.8	6.0	4.9
	26年	7.0	6.7	6.9	6.9	9.6
支払利息率	平成21年	4.1	3.4	2.9	3.8	－
	22年	4.4	3.4	3.0	3.9	－
	23年	3.7	2.8	2.3	3.3	－
	24年	3.2	3.2	2.2	3.1	3.8
	25年	2.8	2.7	2.1	2.7	2.1
	26年	2.6	2.5	1.7	2.5	1.3

減少している。

- ・大旅館 20.2% (▲1.6p、▲7.3%)
- ・中旅館 20.3% (▲2.6p、▲11.4%)
- ・小旅館 20.1% (▲0.9p、▲4.3%)

黒字旅館で低く赤字旅館が高くなっている。資料編より内訳をみていくと水道光熱費と賃借料が赤字旅館では高い。特に大旅館の赤字は賃借料が顕著なほど多くなっている。

- ・大旅館 黒字 19.2% 赤字 24.1%
- ・中旅館 黒字 18.9% 赤字 22.7%
- ・小旅館 黒字 18.1% 赤字 24.1%

(ホテル) 管理経費率は 19.4%で、旅館と比較すると水道光熱費が低く、賃借料が高い。

(4) 減価償却費率

減価償却費率=減価償却費 ÷ 総売上高 ×100

建物等の償却資産を毎年減価償却費として計上する経費であり、本来、売上や収益に関係なく計上

される。平均では前年より +0.9Pとなっている。

- ・大旅館 7.0% (+0.9p、+14.8%)
- ・中旅館 6.7% (+1.0p、+17.5%)
- ・小旅館 6.9% (+0.1p、+1.5%)

赤字の大旅館が高くなっている。

- ・大旅館 黒字 6.7% 赤字 8.0%
- ・中旅館 黒字 6.6% 赤字 6.9%
- ・小旅館 黒字 6.7% 赤字 7.3%

(ホテル) 9.6%と旅館より 3.0p高い。

(5) 支払利息率

支払利息率=支払利息 ÷ 総売上高 ×100

支払利息率は売上高に占める支払利息の割合である。前年を下回り、小旅館が低い。

- ・大旅館 2.6% (▲0.2p、▲7.1%)
- ・中旅館 2.5% (▲0.2p、▲7.4%)
- ・小旅館 1.7% (▲0.4p、▲19.0%)

(ホテル) 1.3%と旅館業より低い。

表18 主要経費構成比

(単位：%)

	(大旅館)		(中旅館)		(小旅館)		旅館		ホテル	
	25年	26年	25年	26年	25年	26年	25年	26年	25年	26年
総売上高	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
売上原価	25.1	25.4	24.2	24.7	23.4	24.3	24.6	25.0	20.6	26.1
売上総利益	74.9	74.6	75.8	75.3	76.6	75.7	75.4	75.0	79.4	73.9
販売費及び一般管理費	71.2	71.2	73.2	73.2	75.3	74.9	72.3	72.3	71.4	70.2
人件費	30.3	30.5	30.7	32.2	35.3	35.2	30.9	31.6	29.8	34.5
給与・賞与	20.8	21.7	23.6	24.8	29.4	28.9	22.6	23.5	23.9	26.0
法定福利費	2.6	2.9	2.9	2.8	3.2	3.1	2.8	2.9	2.9	3.5
その他人件費	1.1	1.0	1.8	1.8	0.9	1.5	1.4	1.3	0.4	0.7
外注費	5.8	5.0	2.4	2.8	1.8	1.7	4.2	3.9	2.6	4.4
営業費	13.0	13.5	13.9	14.1	12.1	12.7	13.3	13.6	11.5	10.4
送客手数料	7.0	6.8	7.1	6.4	4.3	4.6	6.8	6.4	3.6	2.8
カード手数料	0.5	0.5	0.6	0.7	0.7	0.7	0.5	0.6	1.0	0.8
広告宣伝費	1.3	1.5	1.5	1.8	1.4	1.5	1.4	1.6	0.8	2.1
接待交際費	0.3	0.2	0.3	0.3	0.5	0.4	0.3	0.3	0.3	0.2
旅費交通費	0.5	0.5	0.5	0.5	0.6	0.7	0.5	0.5	0.5	0.2
客用消耗品費	1.8	2.1	2.2	2.5	2.8	3.2	2.0	2.4	2.2	2.1
洗濯リネン費	1.6	1.9	1.7	1.9	1.7	1.7	1.7	1.9	3.0	2.1
管理経費	21.8	20.2	22.9	20.3	21.0	20.1	22.2	20.2	25.2	19.4
水道光熱費	7.0	8.0	7.7	7.9	6.9	7.1	7.3	7.9	8.5	6.2
修繕費	2.1	1.9	2.1	2.3	2.2	2.3	2.1	2.1	1.4	1.9
備品費	0.9	0.9	0.9	1.1	0.7	1.0	0.9	1.0	1.3	0.6
賃借料	2.9	3.3	2.2	2.3	1.9	2.6	2.6	2.8	3.8	4.3
通信費	0.3	0.3	0.4	0.4	0.6	0.5	0.4	0.4	0.5	0.4
その他	8.5	5.8	9.6	6.3	8.7	6.6	9.0	6.1	9.8	6.1
G O P 利益	9.8	10.4	8.3	8.7	8.1	7.7	9.1	9.5	12.9	9.6
減価償却費	6.1	7.0	5.7	6.7	6.8	6.9	6.0	6.9	4.9	5.9
営業利益	3.8	3.4	2.6	2.0	1.3	0.7	3.1	2.7	8.0	3.7
営業外収益	2.7	1.9	2.2	2.2	3.2	2.4	2.6	2.1	1.0	3.5
営業外費用	2.9	2.8	2.9	2.7	2.2	2.0	2.9	2.7	2.2	2.5
(うち支払利息)	2.8	2.6	2.7	2.5	2.1	1.7	2.7	2.5	2.1	1.3
経常利益	3.6	2.6	2.0	1.5	2.3	1.2	2.8	2.1	6.8	4.8
償却前利益	9.6	9.6	7.6	8.2	9.1	8.1	8.8	8.9	11.7	10.7

(注) GOP 利益は Gross Operation Profit の略で業務総利益。減価償却費+営業利益で求めている。

9. 客1人当り経費 〈表19〉

客1人当り経費＝経費 ÷ 宿泊人員

宿泊客1人当り経費は売上単価に概ね比例する。

ここでは算出に付帯事業売上を含めている。前年と比較すると客当り総売上高は、小旅館で2,985円低下したが、平均では1円の上昇となっている。

(ホテル) 客当り総売上は前年より大幅増である。

(1) 客1人当り人件費

小旅館が高く大旅館が低い。中旅館で上昇した。

- ・大旅館 6,016円 (▲0円、▲0.0%)
- ・中旅館 6,289円 (+441円、+7.5%)
- ・小旅館 7,693円 (▲1,083円、▲12.3%)

(ホテル) 旅館を上回る。

(2) 客1人当り営業経費

送客手数料が規模に比例して高くなっている。

小旅館は客用消耗品が高い。

- ・大旅館 2,659円 (+85円、+3.3%)
- ・中旅館 2,751円 (+110円、+4.2%)

- ・小旅館 2,775円 (▲230円、▲7.7%)

(ホテル) 旅館に比較し、送客手数料は少なく、広告宣伝費と洗濯リネン費が多い。

(3) 客1人当り管理経費

平均で392円の低下となった。

- ・大旅館 3,977円 (▲344円、▲8.0%)
- ・中旅館 3,955円 (▲414円、▲9.5%)
- ・小旅館 4,382円 (▲833円、▲16.0%)

大旅館では賃借料が多く、小旅館では修繕費が多い。

(ホテル) 旅館に比較し高い。賃借料が多く水道光熱費が少ない。

(4) 客1人当り減価償却費

平均で前年より増加し、小旅館は減少している。

- ・大旅館 1,377円 (+170円、+14.1%)
- ・中旅館 1,300円 (+220円、+20.5%)
- ・小旅館 1,512円 (▲170円、▲10.1%)

(ホテル) 減価償却費は旅館をやや下回る。

表19 宿泊客1人当り主要経費

(単位：円)

	(大旅館)		(中旅館)		(小旅館)		旅館		ホテル	
	25年	26年	25年	26年	25年	26年	25年	26年	25年	26年
総売上高	19,842	19,706	19,049	19,526	24,827	21,842	19,817	19,818	11,074	21,809
売上原価	4,977	5,000	4,608	4,831	5,820	5,317	4,876	4,963	2,283	5,691
売上総利益	14,865	14,706	14,441	14,694	19,007	16,525	14,941	14,855	8,790	16,119
販売費及び一般管理費	14,119	14,030	13,937	14,295	18,683	16,361	14,321	14,326	7,907	15,302
人件費	6,016	6,016	5,848	6,289	8,775	7,693	6,114	6,260	3,301	7,527
給与・賞与	4,123	4,285	4,502	4,833	7,293	6,304	4,472	4,662	2,647	5,661
法定福利費	523	562	544	555	802	685	548	570	324	757
その他人件費	217	190	343	353	222	331	269	263	44	147
外注費	1,154	979	459	548	459	373	825	765	285	962
営業費	2,574	2,659	2,641	2,751	3,005	2,775	2,628	2,704	1,268	2,259
送客手数料	1,388	1,343	1,356	1,245	1,080	997	1,356	1,277	399	618
カード手数料	93	92	109	129	167	154	104	111	111	170
広告宣伝費	263	295	276	356	346	328	273	321	91	457
接待交際費	59	41	49	58	122	83	59	51	32	51
旅費交通費	95	97	103	104	155	148	102	104	60	49
客用消耗品費	353	419	420	491	704	688	402	469	243	450
洗濯リネン費	323	371	328	368	431	376	332	370	332	464
管理経費	4,321	3,977	4,369	3,955	5,215	4,382	4,395	4,003	2,791	4,239
水道光熱費	1,397	1,576	1,469	1,549	1,707	1,542	1,446	1,563	937	1,353
修繕費	410	370	402	449	551	495	415	410	157	406
備品費	182	169	173	215	180	228	178	191	145	124
賃借料	573	652	424	440	474	565	506	564	415	935
通信費	65	65	79	73	138	110	75	72	56	92
その他	1,694	1,145	1,822	1,228	2,165	1,442	1,775	1,202	1,080	1,328
G O P 利益	1,954	2,054	1,583	1,699	2,007	1,675	1,804	1,888	1,430	2,093
減価償却費	1,207	1,377	1,080	1,300	1,682	1,512	1,183	1,360	547	1,277
営業利益	746	677	503	399	324	163	620	529	883	816
営業外収益	544	381	418	420	805	530	507	408	115	772
営業外費用	583	544	544	523	548	436	565	527	247	539
(うち支払利息)	549	506	513	482	513	380	532	486	236	291
経常利益	707	514	377	296	581	257	563	410	751	1,049
償却前利益	1,914	1,891	1,457	1,596	2,263	1,768	1,746	1,769	1,298	2,326

10. 利益率 〈図7、表20、表21〉

利益とは、「売上－経費」である。売上から原価を差し引いた売上総利益、売上総利益から諸経費を差し引いた営業利益など複数の利益が算出される。

段階ごとに利益を把握することで経営を分析することが可能となっている。

(1) 売上総利益率

$$\text{売上総利益率} = \text{売上総利益} \div \text{総売上高} \times 100$$

売上総利益率は平均で0.4pの減少となっている。

- ・大旅館 74.6% (▲0.3p、▲0.4%)
- ・中旅館 75.3% (▲0.5p、▲0.7%)
- ・小旅館 75.7% (▲0.9p、▲1.2%)

黒字と赤字を比較しても顕著な差はみられない。

- ・大旅館 黒字 74.8% 赤字 73.9%
- ・中旅館 黒字 75.3% 赤字 75.1%
- ・小旅館 黒字 76.0% 赤字 75.0%

(ホテル) 旅館に比較しやや低い。

(2) GOP 利益率 (償却前営業利益率)

$$\text{GOP 利益率} = (\text{減価償却費} + \text{営業利益}) \div \text{総売上高} \times 100$$

GOP 利益は、売上高から運営経費を控除した利益である。GOP は Gross Operation Profit の略で、直訳すれば「運営総利益」である。Profit は利益であるから GOP 利益という表現はおかしいが、あえて利益をつけている。運営経費には減価償却費や固定資産税、支払利息は含まないとされるが、この調査では減価償却費と営業利益の合計で GOP 利益を求めている。GOP 利益を求める根拠は所有と運営を分離して把握したいという考えから来ている。すなわち、GOP 利益は支配人など運営トップの成績表といえる。

- ・大旅館 10.4% (+0.6p、+6.1%)
- ・中旅館 8.7% (+0.4p、+4.8%)
- ・小旅館 7.7% (▲0.4p、▲4.9%)

黒字・赤字別では明らかに違う。

- ・大旅館 黒字 11.8% 赤字 4.8%
- ・中旅館 黒字 11.3% 赤字 4.0%
- ・小旅館 黒字 10.9% 赤字 0.9%

(ホテル) 9.6%と旅館業と同水準となっている。

(3) 営業利益率 〈図7〉

$$\text{営業利益率} = \text{営業利益} \div \text{総売上高} \times 100$$

営業利益率は長期的に低下していたが、近年は回復傾向が見られる。今年度は、減価償却費率の増加で営業利益率は前年を下回った。

大旅館が小旅館より高い利益率となっている。

- ・大旅館 3.4% (▲0.4p、▲10.5%)
- ・中旅館 2.0% (▲0.6p、▲23.1%)
- ・小旅館 0.7% (▲0.6p、▲46.2%)

黒字と赤字では営業利益率の格差は大きい。

小旅館で差は10pを超える。

- ・大旅館 黒字 5.1% 赤字 ▲3.2%
- ・中旅館 黒字 4.7% 赤字 ▲2.8%
- ・小旅館 黒字 4.2% 赤字 ▲6.5%

(ホテル) 3.7%と旅館より1.0p高い。

図7 営業利益率の推移 (%)

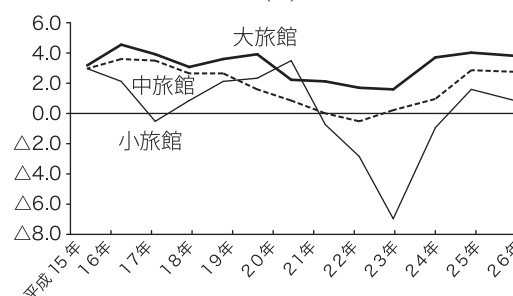


表20 利益率

(単位: %)

年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
売上総利益率	平成21年	74.7	75.1	76.7	75.0
	22年	74.6	74.5	75.8	74.6
	23年	75.6	75.0	74.9	75.3
	24年	75.4	74.9	75.4	75.2
	25年	74.9	75.8	76.6	75.4
	26年	74.6	75.3	75.7	75.0
GOP 利益率	平成21年	9.7	7.0	6.9	8.5
	22年	9.3	6.5	4.3	7.9
	23年	9.2	6.5	0.2	7.7
	24年	10.7	7.3	4.9	8.9
	25年	9.8	8.3	8.1	9.1
	26年	10.4	8.7	7.7	9.5
営業利益率	平成21年	2.0	0.0	△0.7	1.1
	22年	1.6	△0.5	△2.7	0.5
	23年	1.5	0.2	△6.8	0.6
	24年	3.5	0.9	△0.9	2.1
	25年	3.8	2.6	1.3	3.1
	26年	3.4	2.0	0.7	2.7

(4) 経常利益率

$$\text{経常利益率} = \text{経常利益} \div \text{総売上高} \times 100$$

営業利益に営業外収益を加え、営業外費用を差し引いたのが経常利益である。経常利益率は+2.1%となっているが、前年より低下している。

- ・大旅館 2.6% (▲1.0p、▲27.8%)
- ・中旅館 1.5% (▲0.5p、▲25.0%)
- ・小旅館 1.2% (▲1.1p、▲47.8%)

この経常利益をもって黒字と赤字としている。軒数を見ると黒字旅館 151 軒 (61.9%)、赤字旅館 93 件 (38.1 %) となっている。
(ホテル) 経常利益率は 4.8%と旅館平均より上回っている。

(5) 償却前利益率

$$\text{償却前利益率} = (\text{減価償却費} + \text{税引き前利益}) \div \text{総売上高} \times 100$$

経常利益に減価償却費を加えたのが償却前利益である。減価償却費は資産償却のため現金の支出を伴わない。したがって、償却前利益が営業上発生する現金である。この利益が借入金の返済原資となる。中旅館で増加となっている。

- ・大旅館 9.6% (▲0.0p、▲0.5%)
- ・中旅館 8.2% (+0.6p、+7.2%)
- ・小旅館 8.1% (▲1.0p、▲11.2%)

(ホテル) 10.7%と旅館より高くなっている。

表 21 利益率 (単位：%)

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
経常利益率	平成21年	△ 0.1	△ 1.5	2.0	△ 0.5	—
	22年	△ 0.7	△ 1.8	△ 1.8	△ 1.1	—
	23年	△ 0.6	△ 2.8	△ 3.6	△ 1.6	—
	24年	2.9	△ 0.3	△ 1.1	1.3	△ 0.1
	25年	3.6	2.0	2.3	2.8	6.8
	26年	2.6	1.5	1.2	2.1	4.8
償却前利益率	平成21年	6.7	4.8	6.1	6.0	—
	22年	6.5	3.8	3.9	5.3	—
	23年	7.0	4.3	1.0	5.6	—
	24年	7.0	9.0	5.1	7.7	4.9
	25年	9.6	7.6	9.1	8.8	11.7
	26年	9.6	8.2	8.1	8.9	10.7

11. 就業者 (表 22、表 23)

旅館ホテル業では様々な雇用形態の人が従事している。本調査では常勤者である常勤役員、正社員、常勤パートタイマーを就業者としている。

(1) 就業者の数

$$\text{就業者数} = \text{常勤役員} + \text{正社員} + \text{常勤パートタイマー}$$

各規模とも減員となっている。

- ・大旅館 152 人 (▲13 人、▲7.9%)
- ・中旅館 69 人 (▲6 人、▲8.0%)
- ・小旅館 25 人 (▲3 人、▲10.7%)

(ホテル) 77 人で大幅な増員となっている。

(2) 正社員の平均年齢

男性は平均で 44.8 歳と前年よりやや若くなった。小旅館は 1.4 歳若くなり中旅館を下回った。女性は平均で前年変わらずとなっている。大旅館ほど若いのは新卒の採用があるから。規模により平均年齢に顕著な差が表れている。

表 22 就業者数・客室係人数 (単位：人)

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
就業者数	平成21年	154	74	29	90	—
	22年	152	77	28	90	—
	23年	137	79	26	87	—
	24年	161	74	24	77	46
	25年	165	75	28	78	34
	26年	152	69	25	72	77

表 23 正社員の年齢 (単位：歳)

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
男性	平成21年	41.9	44.7	45.4	44.0	—
	22年	41.8	44.3	44.6	43.7	—
	23年	40.8	44.4	44.7	43.4	—
	24年	42.3	44.2	46.7	44.6	45.6
	25年	42.8	45.2	46.5	45.1	44.7
	26年	42.0	45.8	45.1	44.8	42.5
女性	平成21年	38.2	43.1	46.2	42.2	—
	22年	38.1	41.9	44.1	41.3	—
	23年	36.6	41.9	45.6	40.9	—
	24年	37.1	42.0	45.8	42.3	39.0
	25年	37.3	42.1	46.0	42.3	41.0
	26年	36.2	41.9	46.9	42.3	42.1

12. 従業員効率 〈図 8、表 24、表 25〉

(1) 1 室当り就業者数

1 室当り就業者数＝就業者数 ÷ 客室数

1 室当り就業者数は 1.12 名で前年と同水準となったが、大旅館で増加、小旅館で減少となっている。

- ・大旅館 0.96 人 (+0.05 人、+5.5%)
- ・中旅館 1.25 人 (▲0.02 人、▲1.6%)
- ・小旅館 1.40 人 (▲0.12 人、▲7.9%)

黒字・赤字別をみると中旅館と小旅館では黒字の方が就業者数は多い。大旅館は 1 室 1 人を下回り 0.95 人となっている。

- ・大旅館 黒字 0.95 人 赤字 1.01 人
- ・中旅館 黒字 1.40 人 赤字 1.04 人
- ・小旅館 黒字 1.49 人 赤字 1.26 人

(ホテル) 0.75 人で旅館より少ない。

(2) 就業者 1 人当り年間宿泊人員 〈表 24〉

就業者 1 人当り年間宿泊人員＝

年間宿泊利用人員 ÷ 就業者数

就業者当りの宿泊人員は大旅館 624 人に対して小旅館は 369 人とどまる。

- ・大旅館 624 人 (+34 人、+5.8%)
- ・中旅館 442 人 (▲15 人、▲3.3%)
- ・小旅館 369 人 (+61 人、+19.8%)

黒字・赤字別では大旅館で顕著な差がある。中旅館では赤字の方が宿泊人員は多くなっている。

- ・大旅館 黒字 640 人 赤字 565 人
- ・中旅館 黒字 432 人 赤字 460 人
- ・小旅館 黒字 374 人 赤字 359 人

(ホテル) 475 人と旅館より少ない。

(3) 就業者 1 人当り人件費

就業者 1 人当り人件費＝

(外注費などを含む) 人件費 ÷ 就業者数

人件費には正規給与の他に外注費や臨時・アルバイトの給与、法定福利費などが含まれる。人件費をあえて就業者数で割り出している。大旅館が多く小旅館が少ない。

- ・大旅館 370 万円 (▲18 万円、▲4.6%)
- ・中旅館 278 万円 (+8 万円、+3.0%)
- ・小旅館 287 万円 (+17 万円、+6.3%)

黒字・赤字別をみると、小旅館に顕著な差があるものの大旅館や中旅館では特徴はみられない。

- ・大旅館 黒字 372 万円 赤字 360 万円
- ・中旅館 黒字 277 万円 赤字 280 万円
- ・小旅館 黒字 300 万円 赤字 264 万円

(ホテル) 357 万円と旅館を上回っている。

(4) 労働生産性

労働生産性＝売上総利益 ÷ 就業者数

労働生産性は就業者数 1 人当り売上総利益であり人件費の原資となる。大旅館ほど労働生産性は高く小旅館ほど低い。

- ・大旅館 906 万円 (+78 万円、+9.4%)

表 24 従業員効率

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
1室 当り 就業者 数(人)	平成21年	1.00	1.25	1.40	1.11	—
	22年	1.03	1.28	1.33	1.14	—
	23年	0.82	1.29	1.26	1.02	—
	24年	0.96	1.22	1.21	1.08	0.62
	25年	0.91	1.27	1.52	1.12	0.64
	26年	0.96	1.25	1.40	1.12	0.75
就業者1人 当り年間 宿泊人員 (人)	平成21年	594	460	359	524	—
	22年	611	449	353	525	—
	23年	663	458	335	546	—
	24年	591	467	345	511	449
	25年	590	457	308	494	494
	26年	624	442	369	514	475
就業者1人 当り人件 費(万円)	平成21年	358	316	298	337	—
	22年	370	299	307	335	—
	23年	360	295	313	326	—
	24年	354	295	259	319	318
	25年	388	270	270	321	333
	26年	370	278	287	320	357

表 25 労働生産性、労働分配率

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
労働生産性 (万円)	平成21年	859	724	622	788	—
	22年	878	691	619	780	—
	23年	889	678	559	769	—
	24年	884	676	543	758	676
	25年	828	658	593	718	551
	26年	906	658	609	762	765
労働分配率 (%)	平成21年	41.7	43.7	47.9	42.8	—
	22年	42.2	43.3	49.8	43.0	—
	23年	40.5	43.4	54.2	42.2	—
	24年	40.1	43.0	46.3	41.7	43.4
	25年	40.5	40.5	46.2	40.9	37.5
	26年	40.9	42.8	46.6	42.1	46.7

- ・中旅館 658 万円 (+0 万円、+0.0%)
- ・小旅館 609 万円 (+16 万円、+2.7%)

黒字・赤字別でみると、大旅館と小旅館で顕著な差がみられる。

- ・大旅館 黒字 925 万円 赤字 834 万円
 - ・中旅館 黒字 679 万円 赤字 618 万円
 - ・小旅館 黒字 661 万円 赤字 517 万円
- (ホテル) 765 万円と旅館と同水準となっている。

(5) 労働分配率 〈図 8〉

$$\text{労働分配率} = (\text{外注費などを含む}) \frac{\text{人件費} \div \text{売上総利益} \times 100}{\text{売上総利益} \times 100}$$

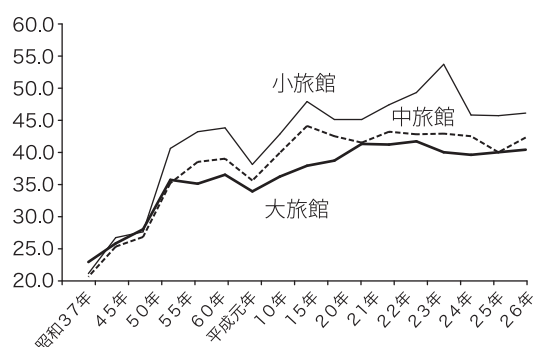
売上総利益に占める人件費の割合が労働分配率である。旅館ホテル経営では労働分配率 40%以内が基準であると言われる。小旅館では46.6%と高い。大旅館では40%を 0.9p 上回る。

- ・大旅館 40.9% (+0.4p、+1.0%)
- ・中旅館 42.8% (+2.3p、+5.7%)
- ・小旅館 46.6% (+0.4p、+0.8%)

黒字・赤字別でみると、赤字旅館が高いのは明確である。大旅館では2.9p 差に対して小旅館では5.2p 差があり、赤字の小旅館は労働分配率は 50%台となっている。

- ・大旅館 黒字 40.3% 赤字 43.2%
 - ・中旅館 黒字 41.5% 赤字 45.3%
 - ・小旅館 黒字 44.9% 赤字 50.1%
- (ホテル) 46.7%と前年より 9.2p 上昇している。

図 8 労働分配率の推移 (%)



13. 建物面積効率 〈表 26〉

(1) 1室当り建物延べ面積

$$1 \text{ 室当り建物延べ面積} = \text{建物延べ面積} \div \text{客室数}$$

小旅館の1室当り面積が小さい。会議室など客室以外の付帯施設の差であろう。

- ・大旅館 144 m² (+1 m²、+0.7%)
- ・中旅館 147 m² (+2 m²、+1.4%)
- ・小旅館 135 m² (+16 m²、+13.4%)

黒字・赤字別でみると、中旅館と小旅館では提供面積の広い方が黒字となっている。

- ・大旅館 黒字 143 m² 赤字 152 m²
- ・中旅館 黒字 150 m² 赤字 145 m²
- ・小旅館 黒字 136 m² 赤字 133 m²

(ホテル) 1室当り建物延べ面積は 59 m²と旅館の半分以下となっている。

(2) 定員1人当り提供面積

$$\text{定員1人当り提供面積} = \frac{\text{建物延べ面積}}{\text{収容定員}}$$

1室当り面積と同様に大旅館が広く小旅館が小さくなっているが、その差は小さい。

- ・大旅館 33.3 m² (▲1.6 m²、▲4.6%)
- ・中旅館 33.2 m² (+1.7 m²、+5.4%)
- ・小旅館 33.0 m² (+4.8 m²、+17.0%)

(ホテル) 29.3 m²で旅館を下回るが、1室当り建物延べ面積の差ほど顕著ではない。

表 26 建物面積効率

(単位: m²)

年 度		(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
1室 当り延べ 面積	平成21年	144	149	141	146	—
	22年	149	146	127	147	—
	23年	138	148	128	142	—
	24年	143	141	119	140	66
	25年	143	145	119	142	55
	26年	144	147	135	145	59
定員1人 当り延べ 面積	平成21年	33.6	32.2	30.8	32.9	—
	22年	31.6	32.0	29.2	31.7	—
	23年	31.6	32.2	33.2	31.9	—
	24年	33.3	30.1	28.0	31.5	40.5
	25年	34.9	31.5	28.2	32.9	31.0
	26年	33.3	33.2	33.0	33.2	29.3

14. 資本効率・資金回収年数 〈表 27〉

(1) 総資本利益率

$$\text{総資本利益率} = \text{経常利益} \div \text{総資本} \times 100$$

総資本利益率は総資本に対する経常利益の割合を示す。今年度は各規模ともプラスとなっている。

- ・大旅館 1.2% (▲0.9p、▲42.9%)
- ・中旅館 1.2% (+0.1p、+9.1%)
- ・小旅館 1.4% (▲0.5p、▲26.3%)

黒字・赤字別では顕著な差が現れている。

- ・大旅館 黒字 2.4% 赤字 ▲3.6%
- ・中旅館 黒字 3.2% 赤字 ▲3.0%
- ・小旅館 黒字 3.8% 赤字 ▲4.1%

(ホテル) 2.5%と旅館平均より高い。

(2) 総資本回転率

$$\text{総資本回転率} = \text{総売上高} \times \text{総資本}$$

総資本回転率は、総資本に対する売上高である。投下した資本が速く回転するということは、お金がよく回っているといえる。したがって高いほどよい。

総資本回転率は、業界ごとに標準値が異なる。

旅館ホテルにあっては一般に新增改築の直後は低く、資産償却が進むに従って高い値を示す。

小旅館は 0.71 回と高い値を示している。

- ・大旅館 0.63 回 (+0.09 回、+16.7%)
- ・中旅館 0.69 回 (+0.14 回、+25.5%)
- ・小旅館 0.71 回 (+0.05 回、+7.6%)

黒字・赤字別でみると、大旅館では赤字の方が高く、中旅館と小旅館では黒字の方が高くなっている。

- ・大旅館 黒字 0.62 回 赤字 0.67 回
- ・中旅館 黒字 0.70 回 赤字 0.67 回
- ・小旅館 黒字 0.73 回 赤字 0.66 回

(ホテル) 0.40 回で旅館より低い。

(3) 資金回収年数

$$\text{資金回収年数} = (\text{長期借入金} + \text{短期借入金}) \div (\text{減価償却費} + \text{経常利益})$$

資金回収年数は借入金を何年で完済可能かをみる指標である。減価償却費と経常利益の合計額を

原資として、その全額をもって借入金を返済するという計算をしている。

分子である借入金が少なく、分母である利益が多い方がよい。すなわち小さい数値ほどよい。

収益性が改善し中旅館では前年より 2 年あまり短縮した。大旅館では 3 年長くなり 14.5 年となっている。

- ・大旅館 14.5 年 (+3.0 年、+26.1%)
- ・中旅館 13.9 年 (▲2.4 年、▲14.7%)
- ・小旅館 11.7 年 (▲1.5 年、▲11.4%)

黒字・赤字別でみると差が顕著である。

黒字旅館では 10 年前後で返済が可能であるが、赤字旅館では 47 年以上、小旅館にあっては 100 年を越えてしまう。

- ・大旅館 黒字 12.3 年 赤字 65.3 年
- ・中旅館 黒字 9.8 年 赤字 47.3 年
- ・小旅館 黒字 8.5 年 赤字 127.2 年

(ホテル) 資金回収年数は 6.0 年と短い。

表 27 資本効率

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
総資本利益率 (%)	平成 21 年	△ 0.4	△ 1.1	△ 1.0	△ 0.7	—
	22 年	△ 0.5	△ 1.5	△ 1.3	△ 0.9	—
	23 年	△ 0.3	△ 1.1	△ 2.5	△ 0.7	—
	24 年	0.2	1.4	△ 0.3	0.7	△ 0.5
	25 年	2.1	1.1	1.9	1.6	2.3
	26 年	1.2	1.2	1.4	1.2	2.5
総資本回転率 (回)	平成 21 年	0.57	0.56	0.47	0.57	—
	22 年	0.53	0.60	0.39	0.54	—
	23 年	0.54	0.60	0.57	0.56	—
	24 年	0.55	0.52	0.43	0.52	0.33
	25 年	0.54	0.55	0.66	0.55	0.64
	26 年	0.63	0.69	0.71	0.66	0.40
資金回収年数 (年)	平成 21 年	19.6	28.6	25.2	22.6	—
	22 年	22.3	34.8	45.7	26.8	—
	23 年	22.3	30.5	42.8	25.3	—
	24 年	18.5	14.8	27.3	17.3	43.8
	25 年	11.5	16.3	13.2	13.3	13.3
	26 年	14.5	13.9	11.7	14.1	6.0

(4) 借入金依存度 〈表 28〉

$$\text{借入金依存度} = (\text{長期借入金} + \text{短期借入金}) \div \text{総資本} \times 100$$

借入金依存度は総資本に占める借入金の割合を示す。大旅館と中旅館で高く小旅館で低い。

- ・大旅館 79.4% (+17.7p、+28.7%)
- ・中旅館 79.5% (+15.3p、+23.8%)
- ・小旅館 64.0% (▲12.2p、▲16.0%)

赤字の小旅館が低い値となっている。

- ・大旅館 黒字 80.4% 赤字 75.2%
- ・中旅館 黒字 72.9% 赤字 93.6%
- ・小旅館 黒字 65.6% 赤字 60.5%

(ホテル) 借入金依存度は 25.1%と低い。

(5) 自己資本比率

$$\text{自己資本比率} = \text{自己資本} \div \text{総資本} \times 100$$

自己資本は資本金と利益剰余金からなる。自己資本は多いほどよい。小旅館が高い。

- ・大旅館 10.4% (▲16.4p、▲61.2%)
- ・中旅館 4.9% (▲19.7p、▲80.1%)
- ・小旅館 17.4% (+6.8p、+64.2%)

(ホテル) 自己資本比率は 55.5%と高い。

表 28 借入金依存度、自己資本比率 (単位：%)

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
借入金依存度	平成21年	78.9	84.9	76.5	81.0	—
	22年	78.3	87.5	67.0	80.9	—
	23年	86.5	80.1	67.4	83.2	—
	24年	79.9	71.2	65.4	75.1	66.5
	25年	61.7	64.2	76.2	63.6	75.2
	26年	79.4	79.5	64.0	78.1	25.1
(短期)	平成25年	11.1	5.7	6.1	8.5	6.2
	26年	9.1	7.4	7.2	8.4	7.7
(長期)	平成25年	50.6	58.5	70.1	55.1	69.0
	26年	70.2	72.1	56.9	69.7	17.3
自己資本比率	平成21年	9.5	△ 0.2	11.8	5.9	—
	22年	12.6	△ 0.3	20.6	8.5	—
	23年	3.3	7.4	18.9	5.5	—
	24年	10.3	19.7	22.8	15.2	13.3
	25年	26.8	24.6	10.6	24.9	3.9
	26年	10.4	4.9	17.4	9.0	55.5

II. 全件調査

以下の項目は、これまでの損益計算を中心とする分析には有効でないとされた回答も含めた全軒を対象としている。

1. 集客の方法 〈図 9、表 29〉

(1) 予約方法

お客様はどのような方法で旅館ホテルを予約されているのでしょうか。リアルエージェントと言われる旅行業、インターネット窓口であるネット業者、自社サイトのそれぞれの比率を設問している。図9の「直接その他」は 100% から引き算で算出している。

(2) 旅行業経由

$$\text{旅行業経由} = \text{旅行業経由の宿泊人員} \div \text{年間延べ宿泊人員} \times 100$$

旅行業経由は大旅館が多いが、50%を下回った。

- ・大旅館 48.3% (▲5.3p、▲9.9%)
- ・中旅館 43.4% (▲5.8p、▲11.8%)
- ・小旅館 27.1% (+3.6p、+15.3%)

(ホテル) 22.2%と旅館の半数となっている。

表 29 エージェントと自社HP (単位：%)

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
旅行業経由	平成21年	62.6	60.2	46.7	61.1	－
	22年	60.0	57.8	38.8	58.2	－
	23年	58.7	50.8	30.0	54.9	－
	24年	59.3	52.4	32.8	55.2	30.9
	25年	53.6	49.2	23.5	50.0	20.6
	26年	48.3	43.4	27.1	44.6	22.2
ネット業者経由	平成21年	12.8	15.3	27.0	14.2	－
	22年	14.1	14.7	23.1	14.7	－
	23年	17.1	19.3	37.8	18.4	－
	24年	17.4	21.7	33.2	19.9	30.7
	25年	15.9	20.9	34.9	19.2	43.9
	26年	17.3	21.9	34.1	20.6	35.6
自社サイトより	平成21年	5.3	6.9	11.4	6.2	－
	22年	5.1	5.6	11.8	5.5	－
	23年	5.6	6.5	17.8	6.2	－
	24年	5.2	7.6	18.9	6.8	3.6
	25年	9.6	11.4	22.8	11.2	13.1
	26年	9.3	13.2	21.9	11.9	9.8

※24年までは「インターネット経由」「うち自社サイト」と設問していた。

(3) ネット業者経由

ネット業者経由＝ネット経由の宿泊人員
 \div 年間延べ宿泊人員 $\times 100$

ネット業者経由は小旅館が牽引する形で進んできたが、ここ4年は横ばいとなっている。

- ・大旅館 17.3% (+1.4p、+8.8%)
- ・中旅館 21.9% (+1.0p、+4.8%)
- ・小旅館 34.1% (▲0.8p、▲2.3%)

(ホテル) 35.6%と旅館平均より15.0pも高い。

(4) 自社サイト経由の宿泊人員

自社サイト経由の構成比＝自社サイトよりの
 宿泊人員 \div 年間延べ宿泊人員 $\times 100$

小旅館が先行する形で拡大してきたが、やはり安定期に入った感がある。

- ・大旅館 9.3% (▲0.3p、▲3.1%)
- ・中旅館 13.2% (+1.8p、+15.8%)
- ・小旅館 21.9% (▲0.9p、▲3.9%)

(ホテル) 9.8%と旅館よりも低くなっている。

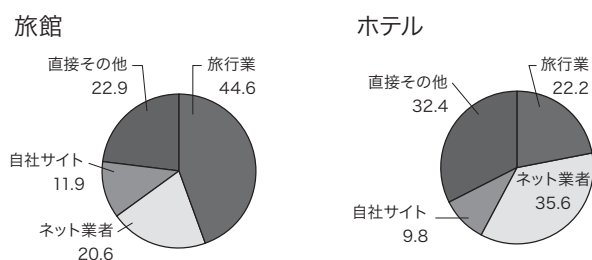
2. ホームページ〈表30、表31〉

(1) ホームページの対応言語

ホームページの対応言語で日本語のみとしている回答は54.2%となっている。対応言語は英語が多く、英語以外では香港や台湾で用いられている繁体字(中国語)、中国大陆で用いられている簡体字(中国語)、韓国語の順となっている。

- ・英語 40.7% (+1.6p)
- ・繁体字 20.3% (+0.2p)
- ・簡体字 14.9% (▲0.2p)
- ・韓国語 13.6% (+0.6p)
- ・日本語のみ 54.2% (▲2.0p)

図9 宿泊人員構成 (単位：%)



(ホテル) 日本語のみが67.9%と旅館より外国語化が進んでいない。

(2) 予約機能

ホームページからの即時予約は86.1%が可能としている。大旅館ほど高い。

- ・大旅館 96.2% (▲0.1p、▲0.1%)
- ・中旅館 90.3% (+2.4p、+2.7%)
- ・小旅館 76.9% (▲3.1p、▲3.9%)

(ホテル) 85.7%と旅館よりやや低い。

表30 自社ホームページ対応言語 (単位：%)

年 度		英語	中国語		韓国語	タイ語	仏語	独語	その他	日本語のみ
			繁体字	簡体字						
旅 館	H21 年	42.0	13.7	13.7	13.3	－	－	－	－	53.5
	22 年	42.5	19.2	16.4	16.8	－	－	－	－	55.1
	23 年	44.3	23.2	18.2	20.2	－	－	－	－	53.2
	24 年	37.5	18.1	15.1	15.8	－	－	－	2.7	57.1
	25 年	39.1	20.1	15.1	13.0	0.7	0.7	0.0	2.7	56.2
	26 年	40.7	20.3	14.9	13.6	0.3	0.3	0.7	0.3	54.2
ホ テ ル	H24 年	30.4	8.7	4.3	4.3	－	－	－	0.0	69.6
	25 年	50.0	17.9	10.7	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	42.9
	26 年	28.6	14.3	10.7	10.7	0.0	0.0	0.0	0.0	67.9

(注) タイ語、仏語、独語は25年調査より設問している。

表31 自社ホームページについて (単位：%)

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
自社専用HP	平成21年	74.6	62.6	73.9	68.4	－
	22年	88.5	87.6	91.7	88.7	－
	23年	91.7	91.2	100.0	92.8	－
	24年	100.0	91.5	93.4	93.8	87.0
	25年	100.0	96.4	89.0	94.3	85.7
	26年	100.0	97.6	86.3	93.6	92.9
HPから即時予約する事が可能	平成21年	100.0	92.9	86.7	93.8	－
	22年	96.6	91.1	83.0	90.8	－
	23年	96.6	93.9	82.9	92.8	－
	24年	100.0	93.8	78.4	89.6	82.6
	25年	96.3	87.9	80.0	86.6	82.1
	26年	96.2	90.3	76.9	86.1	85.7

即時予約可能な HP がある場合の対応言語は、日本語のみが65.0%で、英語31.1%となっている。次いで、中国語（繁体字）、中国語（簡体字）、韓国語の順となっている。ドイツ語やタイ語への対応もみられる。（ホテル）日本語のみは79.2%で、英語は20.8%となっている。中国語、韓国語はそれぞれ8.3%で並んでいる。外国語対応は旅館より低い。

表32 即時予約可能な HP がある場合の対応言語（単位：%）

26年	英語	中国語		韓国語	タイ語	仏語	独語	その他	日本語のみ
		繁体字	簡体字						
旅館	31.1	11.4	9.4	9.4	0.8	0.4	1.2	0.8	65.0
ホテル	20.8	8.3	8.3	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	79.2

表33 外国人宿泊人員比率（単位：%）

年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル	
外国人客宿泊人員比率	平成 21 年	3.1	1.3	4.2	2.4	—
	22 年	2.9	2.5	5.6	2.9	—
	23 年	3.1	1.4	7.6	2.5	—
	24 年	4.0	1.8	7.9	3.4	7.6
	25 年	5.2	3.6	4.2	4.5	9.0
	26 年	7.5	6.0	8.1	7.0	8.1

表34 地域別外国人宿泊人員比率（単位：%）

地 域	25年	26年	前年比
北海道	12.9	17.2	133.3
東北	1.3	1.4	107.7
関東	5.8	5.8	100.0
北陸信越	3.7	3.5	94.6
中部	2.6	3.5	134.6
関西	3.5	7.2	205.7
中国	2.1	2.2	104.8
四国	3.8	6.8	178.9
九州	3.9	6.8	174.4

表35 国籍別外国人宿泊人員

（単位：%）

年 度		韓 国	台 湾	中 国	香 港	タ イ	米 国	英 国	その他不明
旅 館	平成 21 年	10.6	40.7	5.8	8.6	－	2.1	0.4	12.5
	22 年	12.4	34.5	10.6	9.4	－	3.4	1.1	27.0
	23 年	11.8	43.5	7.8	13.5	－	4.2	0.7	18.4
	24 年	9.3	45.3	8.7	11.4	－	5.5	0.9	18.9
	25 年	8.6	44.6	9.3	10.8	3.4	2.3	0.5	20.5
	26 年	8.2	36.6	15.6	12.4	4.1	2.4	0.7	20.0
ホ テ ル	平成 24 年	6.0	11.7	3.9	2.5	－	4.3	2.5	69.1
	25 年	4.0	13.9	11.6	6.6	3.6	5.7	1.6	53.0
	26 年	8.7	15.2	15.5	5.2	4.1	4.8	1.7	44.8

3. 外国人宿泊客 〈表 32、表 33、表 34、表 35〉

(1) 外国人宿泊人員比率

外国人宿泊人員比率＝外国人宿泊人員

÷ 年間延べ宿泊人員 ×100

訪日外客の増加により旅館の外国人宿泊人員は確実に増加している。外国人宿泊人員比率は7.0%に上昇した。

- ・大旅館 7.5% (+2.3p、+44.2%)
- ・中旅館 6.0% (+2.4p、+66.7%)
- ・小旅館 8.1% (+3.9p、+92.9%)

（ホテル）8.1%と旅館より高い。

地域別では北海道が高く、さらに前年の133.3%と増加している。増加率では関西が倍増の勢いで、次いで四国、九州が高くなっている。東北の比率は1.4%と低くなっている。

(2) 国籍別外国人宿泊人員

外国人の国籍では台湾が最も多く36.6%を占める。この7年間でみても台湾からの来訪が一番多い。次いで多いのが中国で伸び率が高い。韓国は低下の一途となっている。

（ホテル）では「その他不明」が多く集計できていないようである。国籍別では、中国、台湾が多い。

(3) 外国人受け入れの意向について〈表 36、表 37〉

「料金に関わりなく受け入れたい」という積極派が増加し 44.1%となっている。一方、「日本人観光客を優先する」は 28.1%とほぼ横ばいとなっている。

外国人の受け入れ意向を規模別にみると、「料金に関わりなく…」は中旅館が高い。「日本人優先」は小旅館で高い。

(ホテル)「料金に関わりなく…」は 50.0%と高い。「日本人優先」は 28.6%で旅館と同水準となっている。

4. インターネット対応 〈表 38〉

(1) サイトコントローラーの導入状況

多くの旅館ホテルは複数のネット業者と契約している。ネット上で予約を受けるためにはネット業者に客室を提供しなければならない。在庫管理は旅館ホテル側がおこなう。

例えば、10 部屋をネット業者 4 社に提供する場合、インターネット上では 40 部屋が販売されていることになる。10 部屋のうち 2 部屋が A 社で予約が入ったら、A 社のみならず残り 3 社の提供数も 8 部屋にしなければならない。従前は手作業で変更していたが、この作業を自動化するコントロールソフトの利用が増え

ている。

サイトコントローラーの導入状況は旅館は 73.2%で、大旅館が 96.2%となっている。小旅館は 52.1%と低い。ホテルも 53.6%と旅館の平均よりも低い。

(2) 公衆無線 LAN の設置 〈表 38〉

スマートホン(スマホ)の普及により公衆無線 LAN の電波が欲しいというニーズが高まっている。

さらに、訪日外国人は日本国内で携帯電波でスマートホンを使用すると高額な国際通信料が必要となる。そのため、無料の電波は訪日外国人にとっても貴重なツールである。公衆無線 LAN を設置する旅館ホテルが増加している。公衆無線 LAN を設置しているのは、旅館では 84.4%となっている。

規模別では大旅館の設置が 96.2%だが、小旅館は 73.5%にとどまる。また関西と北海道では 95%を超える。

(ホテル) 89.3%と旅館より高い。

表 36 外国人の受け入れ意向 (単位：%)

年 度		料金に関わりなく受け入れたい	高単価の外客のみ受け入れたい	日本人観光客を優先する	外客は受け入れたくない
旅 館	平成 21 年	38.5	40.7	21.7	0.5
	22 年	39.4	33.3	28.6	0.5
	23 年	39.9	33.0	27.1	1.5
	24 年	32.4	29.3	34.0	0.8
	25 年	40.5	25.4	27.8	2.7
	26 年	44.1	24.1	28.1	2.7
ホ テ ル	平成 24 年	60.9	8.7	21.7	4.3
	25 年	60.7	3.6	17.9	3.6
	26 年	50.0	17.9	28.6	3.6

表 37 規模別外国人の受け入れ意向 (単位：%)

平成 26 年度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホ テ ル
料金に関わりなく受け入れたい	34.6	56.5	35.9	44.1	50.0
高単価の外客のみ受け入れたい	38.5	25.0	17.1	24.1	17.9
日本人観光客を優先する	25.0	16.9	41.0	28.1	28.6
外客は受け入れたくない	0.0	0.0	6.0	2.7	3.6

表 38 インターネット対応状況 (単位：%)

	サイトコントローラー(手間いらず、ねっぼん、TL リンカーン等)を導入している	公衆無線 LAN を設置している
旅 館	73.2	84.4
大旅館	96.2	96.2
中旅館	83.1	89.5
小旅館	52.1	73.5
北海道	76.9	96.2
東北	71.4	77.1
関東	62.5	81.3
北陸信越	69.6	82.1
中部	80.0	85.0
関西	85.4	97.9
中国	68.2	77.3
四国	62.5	81.3
九州	70.0	70.0
黒字旅館	73.1	82.6
赤字旅館	73.4	88.3
ホテル	53.6	89.3

(3) 公衆無線 LAN の設置場所〈表 39〉

次に、公衆無線 LAN 設置済みの旅館ホテルを対象に設置場所を設問したところ、全館は 35.7%となっている。規模別では小旅館や外国人利用者の割合が高い北海道で全館導入が進む。

全館導入ができていない旅館ホテルの設置場所で最も多いのはロビーとなっている。大旅館では会議室、宴会場での導入が比較的多くなっている。(ホテル) 52.0%と旅館より高くなっている。

3. クレジットカード〈表 40〉

(1) クレジットカード決済

クレジットカード決済が可能な旅館ホテルは 89.8%に及ぶ。大旅館は全てで決済が可能としている。

小旅館は 77.8%と低い。

地域別では関西が最も高く、中部、北海道、東北が続く。また、黒字旅館よりも赤字旅館の方が高くなっている。

(ホテル) 92.9%が可能としており旅館の平均を上回る。

(2) 決済端末の導入

決済可能な旅館ホテルに決済端末の普及度を設問した。大旅館では 98.1%が導入済みだが、小旅館は 89.0%にとどまる。

地域別では関西と中国が 100%となっている。

(ホテル) 回答されたすべてが導入済みとなっている。

(3) カード決済の割合

カード決済の割合は 17.9%で、中旅館が最も高い。

大旅館では 15.3%と比較的低い。大旅館では旅行業依存度が高いため、旅行会社が発行するクーポン券による決済が多いことが窺える。地域別でみると、関西でカード決済の割合が最も高く、次いで北海道と四国となっている。

(ホテル) 決済の割合は 26.8%と旅館よりも高い。

むすび

会員同士であってもお互いの経営の内情を知り合うことは容易ではありません。この報告書は集計結果という平均像ですが、平均像をとおして業界全体が今を知り、自社の現状を再確認していただきたい。そして、改善のための道筋を見い出せることを願っています。

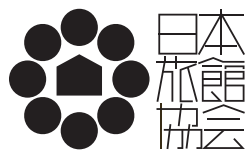
ご協力頂いた旅館ホテルの各位に深く感謝し、全会員の益々の発展を祈念致しております。

表 39 公衆無線 LAN の設置場所 (単位：%)

	全館	ロビー	客室	会議室	宴会場	その他
旅館	35.7	62.2	15.7	10.8	5.2	4.0
大旅館	26.0	74.0	12.0	22.0	10.0	4.0
中旅館	33.3	65.8	19.8	12.6	5.4	5.4
小旅館	45.3	50.0	12.8	2.3	1.2	2.3
北海道	48.0	48.0	12.0	0.0	0.0	4.0
東北	37.0	63.0	11.1	22.2	14.8	3.7
関東	30.8	65.4	15.4	26.9	15.4	3.8
北陸信越	30.4	69.6	15.2	10.9	4.3	6.5
中部	26.5	70.6	17.6	5.9	2.9	2.9
関西	40.4	57.4	12.8	10.6	2.1	4.3
中国	23.5	76.5	29.4	11.8	5.9	0.0
四国	38.5	53.8	23.1	0.0	0.0	0.0
九州	57.1	42.9	14.3	0.0	0.0	7.1
黒字旅館	38.0	60.2	13.9	9.6	4.8	3.6
赤字旅館	31.3	66.3	19.3	13.3	6.0	4.8
ホテル	52.0	44.0	16.0	8.0	4.0	12.0

表 40 クレジットカード (単位：%)

	クレジットカードで 決済が可能	決済端末を導入 している	カード決済の割合
旅館	89.8	94.7	17.9
大旅館	100.0	98.1	15.3
中旅館	96.8	97.5	19.0
小旅館	77.8	89.0	17.8
北海道	92.3	95.8	20.9
東北	91.4	93.8	12.5
関東	75.0	95.8	15.3
北陸信越	89.3	94.0	16.5
中部	95.0	89.5	17.1
関西	97.9	100.0	22.4
中国	86.4	100.0	17.1
四国	81.3	84.6	20.9
九州	90.0	94.4	19.9
黒字旅館	87.6	94.3	18.4
赤字旅館	94.7	95.5	16.8
ホテル	92.9	100.0	26.8



一般社団法人 **日本旅館協会**
JAPAN RYOKAN & HOTEL ASSOCIATION

平成28年1月
営業状況等統計調査 - 平成27年度 -

発行 一般社団法人 **日本旅館協会**
〒102-0093
東京都千代田区平河町 2-5-5
全国旅館会館2階
TEL : 03-5215-7337 FAX : 03-5215-7338

本書を許可無く複製する事は固く禁じます。許諾については当協会までご照会下さい。